

インストールガイド

Sun™ ONE Portal Server

Release 6.0

817-0235-10
2002年8月

Copyright © 2002 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved.

Sun、Sun Microsystems、Sun のロゴ、iPlanet、iPlanet のロゴ、Java、および JavaServer Pages は、米国およびその他の国における Sun Microsystems, Inc. の商標または登録商標です。Netscape および Netscape N のロゴは、米国およびその他の国における Netscape Communications Corporation の登録商標です。その他の Netscape のロゴ、製品名、およびサービス名は、Netscape Communications Corporation の商標であり、国によっては登録商標となっている場合があります。UNIX は、X/Open Company, Ltd. が、独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

Federal Acquisitions: Commercial Software—Government Users Subject to Standard License Terms and Conditions

本書で言及している製品の使用、複製、配布およびデコンパイルの制限はライセンス同意書に明記されています。Sun Microsystems, Inc. および該当するライセンス所有者の書面による事前の同意をなくしては、本書の一部または全体を、いかなる手段によっても複製することは禁止されています。

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、すべての明示または黙示の条件、事実の表明、および商品性、特定目的に対する適合性、著作権の黙示保証を含む保証については、責任の否認が法的に無効である場合を除き、当事者は一切の責任を負わないものとします。

目次

マニュアルについて	5
対象読者	5
お読みになる前に	6
マニュアルの構成	6
表記上の規則	7
モノスペースフォント	7
太字のモノスペースフォント	7
イタリックフォント	7
コマンド行プロンプト	8
関連マニュアル	8
オンラインマニュアル	8
第 1 章 インストールの計画	9
インストールの概要	9
システム要件	11
ハードウェア要件	12
ソフトウェア要件	12
オペレーティングシステム要件	12
推奨ブラウザ	13
設定情報	13
Java Development Kit のチェックリスト	13
Sun ONE Directory Server のチェックリスト	14
Sun ONE Web Server のチェックリスト	16
iPlanet Directory Server Access Management Edition のチェックリスト	18
Sun ONE Portal Server のチェックリスト	20
ディレクトリのレイアウト	20
第 2 章 Sun ONE Portal Server のインストール	23
Sun ONE Portal Server のインストール	23
Sun ONE Directory Server のインストール	26

移行ツールのインストール	27
第 3 章 インストール後の設定	29
root 以外のユーザとして Sun ONE Portal Server を実行するための設定	29
TCP ポートの WAIT 状態の短縮	29
Sun ONE Portal Server インストールの再設定	30
Sun ONE Portal Server の起動	34
ユーザ nobody として Sun ONE Portal Server を実行するための設定	35
TCP ポートの WAIT 状態の短縮	35
Sun ONE Portal Server インストールの再設定	35
Sun ONE Portal Server の起動	40
サーバのインスタンスの作成と削除	40
次の操作	41
Sun ONE Portal Server インストールの 妥当性検査	41
Sun ONE Portal Server 管理コンソールと Desktop へのアクセス	42
Portal Server の管理	43
第 4 章 Sun ONE Portal Server のアンインストール	45
第 5 章 Sun ONE Portal Server のチューニング	47
はじめに	47
チューニング方法	48
メモリー割り当て	49
チューニング手順	49
Solaris のチューニング	50
iPlanet Directory Server Access Management Edition のチューニング	51
Sun ONE Directory Server のチューニング	52
Sun ONE Web Server 6.0 のチューニング	53
Sun ONE Portal Server Desktop のチューニング	57
用語集	59
索引	75

マニュアルについて

このマニュアルでは、SunTM ONE Portal Server 6.0 ソフトウェアと付属ソフトウェアコンポーネントのインストール方法について説明します。Sun ONE Portal Server には、組織の統合データ、知識管理、およびアプリケーションのポータルを作成するプラットフォームが用意されています。Sun ONE Portal Server プラットフォームは、企業間、企業対社員、および企業対顧客などの、あらゆる種類のポータルを構築および導入するための優れたインフラストラクチャソリューションを提供します。

この章には、次の節があります。

- 対象読者
- お読みになる前に
- マニュアルの構成
- 表記上の規則
- 関連マニュアル
- オンラインマニュアル

対象読者

このマニュアルは、Sun ONE Portal Server をサイトにインストールする担当者を対象にしています。

お読みになる前に

Sun ONE Portal Server をインストールする前に、次の製品について理解しておく必要があります。

- Sun™ ONE Directory Server
- iPlanet™ Directory Server Access Management Edition
- Sun™ ONE Web Server

このマニュアルでは、読者が次の製品の知識を持っていることを想定しています。

- Solaris オペレーティング環境
- UNIX コマンド行ユーティリティおよび管理タスク

マニュアルの構成

このマニュアルは、次の章で構成されています。

- マニュアルについて (この章)
- 第1章 「インストールの計画」

iPlanet Portal Server 6.0 ソフトウェアのインストールの推奨事項およびシステム要件について説明します。

- 第2章 「Sun ONE Portal Server の インストール」

Sun ONE Portal Server ソフトウェアの内部および外部コンポーネントをインストールする方法について説明します。

- 第3章 「インストール後の設定」

nobody ユーザおよび root 以外のユーザとして実行するポータルサーバを再設定するためのインストール後の作業について説明します。

- 第4章 「Sun ONE Portal Server の アンインストール」

Sun ONE Portal Server ソフトウェアの内部および外部コンポーネントを削除する方法について説明します。

- 第5章 「Sun ONE Portal Server の チューニング」

Sun ONE Portal Server を最適化するためのチューニングの推奨事項について説明します。

表記上の規則

モノスペースフォント

モノスペースフォントはコンピュータ画面に表示されるテキスト、またはユーザが入力するテキストを表します。また、ファイル名、識別名、関数、コーディング例にも使用します。

太字のモノスペースフォント

太字のモノスペースフォントはコーディング例でユーザが入力するテキストを表します。たとえば、次のようなものがあります。

```
./pssetup
*****
Portal Server (6.0)
*****
Installation log at /var/sadm/install/logs/pssetup.13343/setup.log
This product will run without a license. However, you must either
purchase a Binary Code License from, or accept the terms of a Binary
Software Evaluation license with, Sun Microsystems, to legally use
this product.
Do you accept? yes/[no] Starting install wizard in graphical mode
この例では、./pssetup は、コマンド行から入力するテキストであり、残りは結果として表示されるテキストです。
```

イタリックフォント

イタリックフォントはインストール状況に応じた固有の情報 (変数など) を使用して入力するテキストに使用されます。サーバのパス、名前、アカウント ID などに使用されます。

コマンド行プロンプト

このマニュアルの各例では、コマンド行プロンプト (たとえば、C シェルの %、Korn シェルや Bourne シェルの \$ など) が表示されていません。表示されるコマンド行プロンプトは、ご使用のオペレーティングシステムによって異なります。ただし、コマンドは原則として本書で示されているとおりに入力してください。

関連マニュアル

このマニュアル以外にも、Sun ONE Portal Server には、管理者のための補足情報および開発者のためのマニュアルが付属されています。Sun ONE Portal Server のマニュアルはすべて、次の URL の Web サイトにあります。

<http://docs.sun.com/>

次のマニュアルを入手できます。

- 『Sun ONE Portal Server 6.0 管理者ガイド』
- 『Sun ONE Portal Server 6.0 デスクトップカスタマイズガイド』
- 『Sun ONE Portal Server 6.0 開発者ガイド』
- 『Sun ONE Portal Server 6.0 移行ガイド』

オンラインマニュアル

『Sun ONE Portal Server 6.0 インストールガイド』は、オンラインで PDF 形式と HTML 形式を参照できます。次の URL をご利用ください。

<http://docs.sun.com/>

インストールの計画

Sun™ ONE Portal Server ソフトウェアのインストールを始める前に、慎重にインストール計画を立てる必要があります。インストールを正常に完了するには、インストールソフトウェアの構成、システム要件、および必要な情報をあらかじめよく理解しておいてください。

この章には、次の節があります。

- インストールの概要
- システム要件
- 設定情報
- ディレクトリのレイアウト

インストールの概要

Sun ONE Portal Server のインストールプログラムは、コンポーネントをインストールし、システムの初期設定を行います。Sun ONE Portal Server および Sun™ ONE Directory Server は、同時にインストールすることも、別々にインストールすることも可能です。パフォーマンスを向上させるため、Sun ONE Portal Server および Sun ONE Directory Server を異なるマシンにインストールする場合があります。アップグレード版のインストールの場合は、インストールプログラムの移行ツールを使用できます。

インストールに際しては、次のことを考慮してください。

- Sun ONE Portal Server は Sun ONE Directory Server と同じマシン、または別のマシンにインストールすることができる。Sun ONE Directory Server は、既存のインストールを使用することもできる

- Sun ONE Portal Server と Sun ONE Directory Server を別々にインストールする場合は、Sun ONE Directory Server を最初にインストールすること
- Sun ONE Portal Server を稼動するマシンが、Sun ONE Directory Server を稼動するマシンへのアクセス権を持っていること。システム間のファイアウォールが Sun ONE Directory Server ポートへの接続をブロックしていないこと
- Sun ONE Portal Server は iPlanet™ Directory Server Access Management Edition と同じマシンにインストールすること。また、iPlanet Directory Server Access Management Edition がすでにインストールされているマシンにもインストールできる
- Sun ONE Portal Server は、Sun™ ONE Web Server がすでにインストールされているマシンにはインストールできない。インストールプログラムによって、Sun ONE Portal Server に必要な Sun ONE Web Server がインストールされる。Web サーバがすでにインストールされている場合は、Sun ONE Portal Server に含まれる Sun ONE Web Server は別のポートにインストールされる

図 1-1 は、Sun ONE Portal Server、iPlanet Directory Server Access Management Edition、Sun ONE Web Server、および Sun ONE Directory Server の単一マシンへのインストール例を示しています。

図 1-1 単一マシンへのインストール

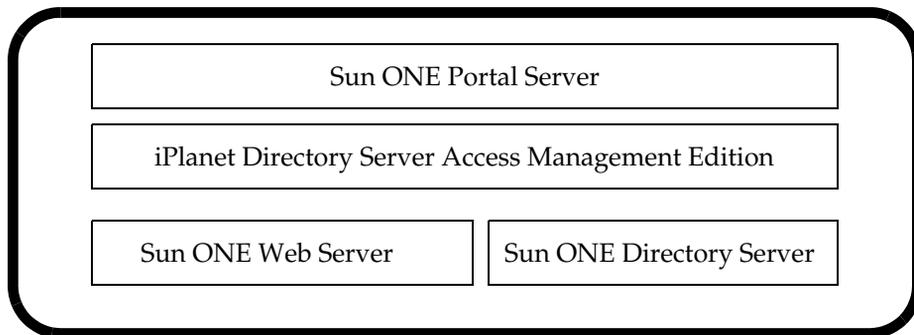
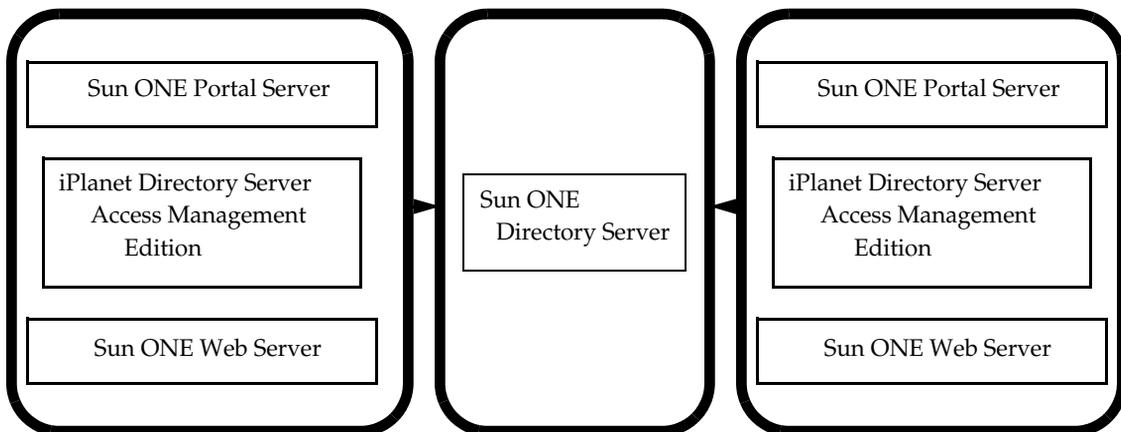


図 1-2 は、他のマシンで Sun ONE Directory Server を使用していて、Sun ONE Portal Server、iPlanet Directory Server Access Management Edition、および Sun ONE Web Server の複数のマシンへのインストール例を示しています。

図 1-2 複数のマシンへのインストール



Sun ONE Portal Server ソフトウェアには、Sun ONE Portal Server の以前のバージョンからアップグレードするサイト用のデータ移行ツールも含まれています。

iPlanet™ Portal Server 3.0 Service Pack 3a または Service Pack 4 からこのバージョンのソフトウェアにアップグレードする場合は、次のガイドラインに従います。

Sun ONE Portal Server Data Migration Tool Suite をシステムにインストールします。

- iPlanet™ Portal Server 3.0 (Service Pack 3a または 4) システムから別の Sun ONE Portal Server 6.0 システムに移行する場合は、2つの Sun ONE Portal Server 6.0 Data Migration Tool Suite が必要であり、システムごとにインストールする必要がある
- 単一システムの移行については、iPlanet Portal Server 3.0 (Service Pack 3a または 4) システムに Sun ONE Portal Server 6.0 をインストールできる

システム要件

Sun ONE Portal Server ソフトウェアをインストールする前に、システムが次の要件を満たしていることを確認してください。

- ハードウェア要件
- ソフトウェア要件
- オペレーティングシステム要件 (パッチを含む)
- 推奨ブラウザ

ハードウェア要件

新しいソフトウェアをインストールする場合は、システムは少なくとも次のハードウェア要件を満たしている必要があります。

- 1 450 MHz UltraSPARC II CPU 以上
- 512 M バイトの RAM
- 1 G バイトのハードウェアドライブのスワップ空間
- 1 G バイトのディスク容量

ソフトウェア要件

ここで説明するソフトウェアは、Sun ONE Portal Server ソフトウェアを正常にインストールするのに必要です。これらのソフトウェア製品の以前のバージョンについてはサポートしていません。

- Sun ONE Directory Server 5.1
- iPlanet Directory Server Access Management Edition 5.1
- Java™ Development Kit (JDK) 1.3.1_04

オペレーティングシステム要件

Sun ONE Portal Server ソフトウェアには、オペレーティングシステムとして少なくともユーザ版の Solaris 8 または Solaris 9 ソフトウェアが必要です。Solaris 8 の場合には、製品を正常にインストールするために、次のオペレーティングシステムのパッチも必要です。

- 109326-03
- 108434-03

- 108827-15

これらは必要最小限のパッチです。パッチ番号の最後の 2 桁は、マイナー改訂番号です。パッチの改訂がリリースされている場合は、パッチの最新改訂版 (改訂番号が最も大きい版) をインストールします。通常、これらのパッチは、新しいパッチがリリースされると旧版になり、SunSolve サイトからは最新パッチしか入手できなくなります。各パッチの readme を参照して、必要な付属製品およびパッチを確認してください。

最新のパッチがインストールされている場合は、インストーラを使用してインストールを続行できます。

推奨ブラウザ

次のブラウザは Sun ONE Portal Server Desktop の管理およびアクセスに使用できます。

- Internet Explorer 5.5 および 6.0
- NetscapeTM 4.7x 以上、および 6.2.1

設定情報

Sun ONE Portal Server ソフトウェアのインストール中に、いくつかの設定情報を指定する必要があります。この節のチェックリストを完成してから、ソフトウェアをインストールしてください。

Java Development Kit のチェックリスト

Java Development Kit (JDK ソフトウェア) がシステム上にすでにインストールされている場合は、Sun ONE Portal Server はそれを使用します。

次の項目を確認してから、Sun ONE Portal Server をインストールします。

- サポートされているバージョンの JDK ソフトウェアが、システムにインストールされているか。インストール済みであれば、インストールされているディレクトリを指定する

インストール済みの JDK のバージョンは、1.3.1_04 でなければなりません。これ以外のバージョンは、このソフトウェアではサポートされません。

- JDK ソフトウェアをインストールするか

デフォルトでは、JDK は `/usr/java_1.3.1_04` にインストールされます。

Sun ONE Directory Server のチェックリスト

インストール中に、ディレクトリにアクセスする URL が設定されるように、Sun ONE Directory Server のインストール先のサーバに関する情報を入力する必要があります。

既存のディレクトリサーバを使用するか、新しいディレクトリサーバをインストールするかに関わらず、次の情報を指定する必要があります。

- Sun ONE Directory Server がシステムにすでにインストールされているか。または、別のシステムで稼働中の Sun ONE Directory Server を使用するか

Sun ONE Directory Server は、Sun ONE Portal Server より先にインストールする必要があります。Sun ONE Directory Server が `pssetup` を使用してインストールされていない場合は、Sun ONE Directory Server が稼働中のシステムにパッチ 113177-01 をインストールしてください。既存の Sun ONE Directory Server がインストールされているマシンに Sun ONE Portal Server をインストールする場合は、`pssetup` はディレクトリサーバのパッチ 113177-01 をインストールします。`pssetup` は、リモートホストの既存の Sun ONE Directory Server には、ディレクトリサーバのパッチをインストールしません。既存の Sun ONE Directory Server がリモートホストにある場合は、マニュアルの説明に従って Sun ONE Directory Server パッチを追加します。

- このシステムに Sun ONE Directory Server をインストールするか。または、別のシステムに Sun ONE Directory Server をインストールするか

Sun ONE Directory Server は、Sun ONE Portal Server より先にインストールする必要があります。`pssetup` を使用して Sun ONE Directory Server をインストールする場合は、インストールプログラムが必要な Sun ONE Directory Server パッチをインストールします。

- ディレクトリサーバが稼働中のシステムのホスト名
- ディレクトリサーバが稼働中のシステムのサブドメイン名

サーバがメインドメインの下ドメインにある場合は、この名前を使用します。または、ドット (.) を入力して、サーバがサブドメインにないことを示します。

- ディレクトリサーバが稼働中のシステムのドメイン名

`/etc/hosts` ファイルをチェックして、システムの完全指定のドメイン名を指定します。

注 Sun ONE Portal Server をインストールする際に、既存の Sun ONE Directory Server を使用しないように選択している場合は、システムのホスト名、サブドメイン名、およびドメイン名を指定する必要はありません。インストーラは、これらの値が iPlanet Directory Server Access Management Edition 用に入力されたものと同じであると想定します。

- Sun ONE Directory Server のベースディレクトリ

新しい Sun ONE Directory Server のデフォルトのベースディレクトリは、`/usr/ldap` です。ベースディレクトリは、ローカルディスクドライブのディレクトリにする必要があります。つまり、ネットワークドライブをインストールのために使用することはできません。AFS、NFS、および SMB などのファイル共有プロトコルは、Sun ONE Directory Server による使用に適したファイルロックおよびパフォーマンスを提供しません。これらのプロトコルがローカルファイルシステムで保持されないと、サーバデータベースのインデックスファイルが損傷を受ける場合があります。

- Sun ONE Directory Server へのアクセスにはどのポートを使用するか

ポート番号は、1 から 65535 までの任意の番号です。

デフォルトの LDAP ポート番号は、389 です。LDAP over SSL のデフォルトのポート番号は 636 です。このため、ポート番号 636 が未使用の場合でも、これを標準の LDAP インストールに使用しないでください。標準の LDAP ポートでは LDAP over TLS を使用することもできます。

UNIX プラットフォームで、ポート 389 またはポート 636 のいずれかで待機する場合は、Sun ONE Directory Server を `root` または `nobody` ユーザとして稼働する必要があります。

選択するポートが未使用であることを確認してください。ポートが未使用であるかを確認するには、次のように入力します。

```
netstat -an | grep port-number
```

また、LDAP および LDAPS 通信の両方を使用している場合は、これらの 2 種類のアクセス用に選択したポート番号が同一でないことを確認します。

- Sun ONE Directory Server の管理ポート番号

デフォルトのポート番号は 8900 です。ポート 8900 をすでに他のアプリケーションで使用している場合、Sun ONE Directory Server 管理には別のポートを選択します。選択するポートを他のプロセスで使用していないことを確認します。

- 組織名
ソフトウェアデータは、組織名の下に Sun ONE Directory Server に格納されます。
- ディレクトリツリーのルートサフィックス
これは、ディレクトリツリーの最初のエントリーを表すディレクトリエントリーです。企業のデータを含むツリーには、少なくとも 1 つのディレクトリサフィックスが必要です。

ルートサフィックスが 1 つの組織の場合は、ルートサフィックスとデフォルトの組織が同じになるように選択できます。

デフォルトのディレクトリルートサフィックスは、`o=isp` です。
- ディレクトリマネージャ識別名 (DN)
アクセス制御は、このディレクトリエントリーには適用されません。デフォルトの DN は、`cn=Directory Manager` です。

この DN は、Sun ONE Directory Server に設定された任意のサフィックスに一致する必要はありません。ディレクトリマネージャ DN と同じ DN を持つ実際のディレクトリサーバのエントリーは、手動で作成しないでください。
- ディレクトリマネージャのパスワード
パスワードは、8 文字以上にする必要があります。これは、ASCII 文字、数字、および記号に限定されます。

注 `pssetup` で同じマシンに Sun ONE Directory Server および iPlanet Directory Server Access Management Edition をインストールする場合は、Sun ONE Web Server 管理者のパスワード、iPlanet Directory Server Access Management Edition 管理者のパスワード、およびディレクトリマネージャのパスワードはすべて同じになります。パスワードを要求された際に入力するものが、3 つのコンポーネントの管理コンソールすべてにアクセスするためのパスワードになります。

Sun ONE Web Server のチェックリスト

Sun ONE Web Server をインストールする際には、次の基本設定情報を指定します。

- システムに Sun ONE Web Server がインストールされているか

Sun ONE Portal Server ソフトウェアは、すでにインストールされている Sun ONE Web Server を使用しないで、独自の Web サーバをインストールします。

- Sun ONE Web Server 管理ポート番号

管理インスタンスで、Sun ONE Web Server を管理できます。管理インスタンスに無作為の番号を選択して、他者によるサーバの侵害を困難にします。サーバを設定する際は、管理サーバのポート番号を使用します。たとえば、サーバ `siroe.com` の場合、サーバの URL は `http://www.siroe.com:2634/` になります。

選択するポートが未使用であることを確認します。UNIX システムでは、サーバマシンでファイル `/etc/services` をチェックして、別のサービス用に確保されているポート番号を割り当てていないことを確認することができます。別のサービスで使用されているポートを選択した場合は、インストールプログラムが別のポートの指定を求めるプロンプトを表示します。

UNIX を使用していて 1024 より小さいポート番号を選択する場合は、root でログインしてサーバを開始する必要があります。サーバがポートにバインドすると、サーバは root ユーザアカウントから指定のユーザアカウントに変わります。1024 より小さいポート番号のサービスは、ユーザ `nobody` として実行する場合に使用できます。root 以外のその他すべてのユーザは、1024 より大きいポート番号を使用する必要があります。ユーザ `nobody` は、解決可能なパスワードを持たないため、root となり実行するプロセスを `nobody` として開始する必要があります。1024 より大きいポート番号を選択する場合は、root ユーザとしてサーバを開始する必要はありません。

デフォルトでは、ソフトウェアは Sun ONE Web Server 管理ポートとしてポート 8088 を割り当てます。

- Sun ONE Web Server 管理者名

デフォルトでは、Web サーバの管理に使用するユーザ名は `admin` です。ただし、管理者には別の名前を指定することができます。

- このサーバの管理者のパスワード

パスワードは 8 文字以上にする必要があります。

注 pssetup で同じマシンに Sun ONE Directory Server および iPlanet Directory Server Access Management Edition をインストールする場合、Sun ONE Web Server 管理者のパスワード、iPlanet Directory Server Access Management Edition 管理者のパスワード、およびディレクトリマネージャのパスワードはすべて同じになります。パスワードを要求されたときに入力するものが、3つのコンポーネントの管理コンソールすべてにアクセスするためのパスワードになります。

iPlanet Directory Server Access Management Edition のチェックリスト

iPlanet Directory Server Access Management Edition をインストールする際に、次の基本設定情報を指定して Sun ONE Portal Server に iPlanet Directory Server Access Management Edition をインストールおよび設定します。

- システムに iPlanet Directory Server Access Management Edition をインストールするか。または、このシステムにすでに iPlanet Directory Server Access Management Edition がインストールされているか

Sun ONE Portal Server は、iPlanet Directory Server Access Management Edition が稼働中のシステムにインストールする必要があります。また、iPlanet Directory Server Access Management Edition は Sun ONE Portal Server より先にインストールする必要があります。バージョンに互換性がある場合は、すでにインストール済みの iPlanet Directory Server Access Management Edition を使用できます。詳細は「ソフトウェア要件」を参照してください。ただし、ユーザ nobody として実行する既存の iPlanet Directory Server Access Management Edition への Sun ONE Portal Server のインストールはサポートされていません。root として実行するように iPlanet Directory Server Access Management Edition を変更してから Sun ONE Portal Server をインストールしてください。root として実行するように iPlanet Directory Server Access Management Edition を変更する方法については、第2章、「Sun ONE Portal Server のインストール」を参照してください。

- iPlanet Directory Server Access Management Edition ソフトウェアのベースディレクトリ

ベースディレクトリは、ローカルディスクドライブのディレクトリにする必要があります。つまり、ネットワークのドライブをインストールのために使用することはできません。ベースディレクトリは、新規に作成するか、空になっている必要があります。

iPlanet Directory Server Access Management Edition のデフォルトのベースディレクトリは、/opt です。

- システムのホスト名
- システムのサブドメイン名

サーバがメインドメインの下ドメインにある場合は、この名前を使用します。ドット (.) を入力して、サーバがサブドメインにないことを示します。

- システムのドメイン名

/etc/hosts ファイルをチェックして、システムの完全指定のドメイン名を指定します。

- このシステムの IP アドレス

複数のネットワークインタフェースカード (すなわち NIC) がある場合、複数の IP アドレスは複数の NIC に対応するため、正しい IP アドレスを指定していることを確認します。

インストールプログラムでシステムの IP アドレスを検出できないことが通知される場合は、システムの完全指定のドメイン名を正しく指定しているか確認してください。

- このサーバで SSL を実行するか

SSL は、クライアントブラウザとサーバ間で通信を暗号化するのに使用されます。デフォルトでは、ソフトウェアがシステムで SSL を実行しないことを前提にしています。

- Sun ONE Portal Server へのアクセスにどのポートを使用するか

ブラウザがサーバとの通信に使用するポートを指定します。Sun ONE Portal Server ソフトウェアのサーバコンポーネントに提供されるデフォルトのポート番号は、SSL 通信以外の場合は 80、SSL 通信の場合は 443 です。

ユーザ nobody として Sun ONE Portal Server を稼動する場合は、1024 までの予約済みのポートを含めて、利用可能なすべてのポートを使用できます。正規 (または root 以外) のユーザとして稼動する場合は、Sun ONE Portal Server のインストールの際に 1024 より大きいポートを使用してください。

選択するポートが未使用であることを確認してください。ポートが未使用かどうかを確認するには、次のように入力します。

```
netstat -an | grep port-number
```

Sun ONE Portal Server のチェックリスト

Sun ONE Portal Server のデフォルトのベースディレクトリは、`/opt` です。または、iPlanet Directory Server Access Management Edition ソフトウェアのベースディレクトリと同じベースディレクトリに配備されています。詳細は「iPlanet Directory Server Access Management Edition のチェックリスト」を参照してください。

- Sun ONE Portal Server 3.0 Service Pack 3a または 4 がすでにシステムにインストールされているか

インストールされている場合は、ソフトウェアまたは移行ユーティリティ、あるいはその両方をインストールする前に、「インストールの概要」で説明したこのソフトウェアのバージョンのアップグレードに関する情報を参照してください。

- 配備の URI

デフォルトでは、コンテンツは

BaseDir/SUNWps/web-apps/ServerInstance/URI に配備され、URI はデフォルトでは `/portal` です。配備の URI の値の前にはスラッシュが 1 つだけ必要です。コンテンツは、Sun ONE Web Server でインストールされます。

- このシステムにサンプルポータルをインストールするか

Sun ONE Portal Server ソフトウェアには、サンプルポータルが付属されています。サンプルポータルをインストールする場合は、ポータル設定の例を参照できます。サンプルポータルは開始点として機能し、各種 Desktop コンポーネントの使用法の例を提供します。

サンプルポータルは配備を目的とするものではありません。その性質から、必然的に汎用の (サンプル同様の) ものになります。特定の配備ニーズに応じて、ポータルを設定することができます。

ディレクトリのレイアウト

この節では、Sun ONE Portal Server ソフトウェアのデフォルトのディレクトリのレイアウトおよび対応するコンポーネントについて簡単に説明します。

表 1 ディレクトリの配置

<code>/opt/SUNWps</code>	実行可能な Sun ONE Portal Server ソフトウェアおよび配備されたアプリケーションを格納
--------------------------	---

表 1 ディレクトリの配置 (続き)

/opt/SUNWam	実行可能な iPlanet Directory Server Access Management Edition、Sun ONE Web Server、および配備されたアプリケーションを格納
/etc/opt/SUNWps	Java Server Pages、テンプレートおよびプロパティファイル、タグライブラリ、および検索エンジンのデータベースディレクトリを格納
/var/opt/SUNWps	検索エンジンのデータベースディレクトリを格納
/var/opt/SUNWam	デバッグのログファイルを格納
/usr/ldap	Sun ONE Directory Server を格納
/usr/java_1.3.1_04	JDK を格納
/etc/opt/SUNWam	iPlanet Directory Server Access Management Edition DTD を格納

Sun ONE Portal Server の インストール

この章では、Sun™ ONE Portal Server ソフトウェアのインストールの手順およびサポートしているコンポーネントについて説明します。

iPlanet™ Portal Server 3.0 (Service Pack 3a または 4) から Sun ONE Portal Server 6.0 へ移行する場合は、システムのバックアップを行ってから Sun ONE Portal Server 6.0 ソフトウェアをインストールしてください。この安全策により、カスタマイズした設定内容が上書きされるのを防ぎます。

この章には、次の節があります。

- Sun ONE Portal Server のインストール
- Sun ONE Directory Server のインストール
- 移行ツールのインストール

注 Sun ONE Portal Server ソフトウェアを新しくインストールするには、第 1 章「インストールの計画」で説明した要件を満たしていることを確認してください。

Sun ONE Portal Server のインストール

この節では、Sun ONE Portal Server ソフトウェアのインストール手順について説明します。インストールの一環として、Sun ONE Portal Server ソフトウェアは、次のインストールを行います。

- Sun™ ONE Web Server ソフトウェア

- Sun™ ONE Directory Server ソフトウェア
- iPlanet™ Directory Server Access Management Edition ソフトウェア
- Sun ONE Portal Server

Sun ONE Portal Server ソフトウェアをユーザ nobody として稼働している既存の iPlanet Directory Server Access Management Edition にインストールするには、iPlanet Directory Server Access Management Edition が root として稼働するように変更します。変更するには、次の手順に従います。

1. iPlanet Directory Server Access Management Edition が稼働中のサーバにログインし、スーパーユーザになります。
2. 次のファイルを修正します。
 - a. **BaseDir/SUNWam/servers/https-*hostname.domain*/config/magnus.conf** ファイルで `User nobody` の行を `User root` に変更します。
 - b. **DSBaseDir/slapd-*hostname*/config/dse.ldif** ファイルで、`nsslapd-localuser:nobody` の行を `nsslapd-localuser:root` に変更します。
3. 次のディレクトリの所有者を nobody から root に変更します。次のように入力します。

```
chown -R root:other /etc/opt/SUNWam
chown -R root:other DSBaseDir
chown -R root:other /tmp/https*
chown -R root:other /opt/SUNWam
chown -R root:other /var/sadm/pkg/SUNWamsvc
chown -R root:other /var/sadm/pkg/SUNWamws
chown -R root:other /var/sadm/pkg/SUNWamds
```

4. root ユーザとしてディレクトリサーバを再起動します。
5. `/etc/init.d/amserver stop` を実行します。
6. すべてのプロセスが停止したことを確認します。次のように入力すると、確認できます。

```
ps -ef | grep SUNWam
ps -ef | grep DSBaseDir
```

シャットダウンしていないプロセスを終了します。

7. `/etc/init.d/amserver start` を実行します。

Sun ONE Portal Server ソフトウェアをインストールするには、次の手順に従います。

1. マシンへログインし、スーパーユーザになります。

Sun ONE Portal Server をインストールするには、ルートアクセス権が必要です。

2. プログラムをインストールするディレクトリに変更します。

3. 次のように入力します。

```
# gunzip -dc ps-6.0-us.sparc-sun-solaris.tar.gz | /usr/bin/tar xvf -
```

4. 次のように入力します。

```
# ./pssetup
```

5. 使用許諾契約書に同意するかどうかを指定します。同意する場合は、「**yes**」を入力します。

注 この製品はライセンスがなくても実行しますが、Sun Microsystems からバイナリコードライセンスを購入されるか、バイナリコード評価ライセンス条件に同意されることにより、合法的にこの製品を使用してください。

6. Sun ONE Portal Server をインストールするオプションを選択します。

「設定情報」のチェックリストを使用して、ソフトウェアをインストールします。

ヒント インストール中はいつでも、インストールログ `/var/sadm/install/logs/pssetup.pid/install.log` でインストール状態を確認することができます。インストール中にログファイルを表示するには、たとえば、次のように入力します。

```
tail -f /var/sadm/install/logs/pssetup.pid/setup.log
```

ここで、*pid* は、pssetup プロセスのプロセス ID です。インストール後は、インストール中のエラーに関してこのログを確認します。

Sun ONE Directory Server のインストール

Sun ONE Directory Server ソフトウェアをインストールするには、次のようにします。

1. マシンへログインし、スーパーユーザになります。

Sun ONE Directory Server をインストールするには、ルートアクセス権が必要です。

2. プログラムをインストールするディレクトリを変更します。

3. 次のように入力します。

```
# gunzip -dc ps-6.0-us.sparc-sun-solaris.tar.gz | /usr/bin/tar xvf -
```

4. 次のように入力します。

```
# ./pssetup
```

5. 使用許諾契約書に同意するかどうかを指定します。同意する場合は、「**yes**」と入力します。

注 この製品はライセンスがなくても実行しますが、Sun Microsystems からバイナリコードライセンスを購入されるか、バイナリコード評価ライセンス条件に同意されることにより、合法的にこの製品を使用してください。

6. Sun ONE Directory Server だけをインストールするオプションを選択します。

Sun ONE Directory Server のチェックリストを使用して、ソフトウェアをインストールします。

ヒント インストール中はいつでも、インストールログ `/var/sadm/install/logs/pssetup.pid/install.log` でインストール状態を確認することができます。インストール中にログファイルを表示するには、たとえば、次のように入力します。

```
tail -f /var/sadm/install/logs/pssetup.pid/setup.log
```

ここで、*pid* は、pssetup プロセスのプロセス ID です。インストール後は、インストール中のエラーに関してこのログを確認します。

移行ツールのインストール

Sun ONE Portal Server ソフトウェアには、iPlanet Portal Server 3.0 (Service Pack 3a または 4) をこのリリースに移行するための移行ユーティリティがあります。

移行ツールをインストールするには、次の手順に従います。

1. システムへログインし、スーパーユーザになります。

移行ユーティリティは、既存のバージョンの iPlanet Portal Server 3.0 (Service Pack 3a または 4) がすでにインストールされているシステムにインストールできます。iPlanet Portal Server 3.0 (Service Pack 3a または 4) システムから別の Sun ONE Portal Server 6.0 システムに移行する場合は、各システムへのインストール用に iPlanet Portal Server 3.0 Data Migration Tool Suite が 2 つ必要です。単一システムに移行する場合は、iPlanet Portal Server 3.0 (Service Pack 3a または 4) システムに Sun ONE Portal Server 6.0 をインストールできます。移行ユーティリティをインストールするには、`root` でのアクセスが必要です。

2. プログラムをインストールするディレクトリに変更します。

3. 次のように入力します。

```
# gunzip -dc ps-6.0-us.sparc-sun-solaris.tar.gz | /usr/bin/tar xvf -
```

4. 次のように入力します。

```
# ./pssetup
```

5. デフォルトのインストール場所を使用するか、移行ユーティリティをインストールするディレクトリを指定します。

デフォルトでは、ソフトウェアが `/opt` にユーティリティをインストールします。Sun ONE Portal Server 6.0 ソフトウェアのホストであるシステムに移行ユーティリティをインストールする場合は、ツールが `BaseDir/SUNWps/migration` にインストールされます。

6. 移行ツールだけをインストールするオプションを選択します。

インストールプログラムは、移行ツールを指定された場所にインストールします。ツールは、`BaseDir/SUNWps/migration/bin` ディレクトリにインストールされます。

移行ユーティリティを使用する iPlanet Portal Server 3.0 Service Pack 3a または 4 からの Sun ONE Portal Server 6.0 への移行についての詳細は、『Sun ONE Portal Server 6.0 移行ガイド』を参照してください。

インストール後の設定

この章では次のインストール後の作業について説明します。

- root 以外のユーザとして Sun ONE Portal Server を実行するための設定
- ユーザ nobody として Sun ONE Portal Server を実行するための設定
- サーバのインスタンスの作成と削除
- 次の操作

root 以外のユーザとして Sun ONE Portal Server を実行するための設定

特に指定のないかぎり、すべての手順は root として実行します。Sun™ ONE Portal Server ソフトウェアをインストールしたあとで、次の操作を行います。

TCP ポートの WAIT 状態の短縮

通常は 240000 ミリ秒 (4 分) に設定されている TCP ドライバのクローズ待ち時間の間隔を短縮します。アプリケーションが正常に終了しない場合には、ポートを WAIT 状態のままにすることもできますが、操作を再試行するには 4 分待つこととなります。この間隔を短くするには次の手順に従います。

1. 次のように入力して現在の設定を取得します。

```
# ndd -get /dev/tcp tcp_time_wait_interval
```

2. 次のように入力して、値を 10 秒に設定します。

```
# ndd -set /dev/tcp tcp_time_wait_interval 10000
```

この設定は次の再起動まで有効です。この変更を継続するには、
/etc/rc2.d/S69inet ファイルを編集して時間を短縮します。

Sun ONE Portal Server インストールの再設定

1. **BaseDir**/SUNWam/servers/https-*hostname.domain*/config/magnus.conf ファイルを編集します。次の magnus.conf ファイルのサンプルに示されているように、User root エントリを User **Userid** に変更します。

コーディング例 3-1 magnus.conf ファイルのサンプル

```
#ServerRoot /opt/SUNWam/servers/https-siroe.sun.com
ServerID https-siroe.sun.com
ServerName siroe.sun.com
ErrorLog /opt/SUNWam/servers/https-siroe.sun.com/logs/errors
PidLog /opt/SUNWam/servers/https-siroe.sun.com/logs/pid
User Userid
MtaHost localhost
DNS off
Security off
ClientLanguage en
AdminLanguage en
DefaultLanguage en
RqThrottle 1024
StackSize 131072
...
#ServerRoot /opt/SUNWam/servers/https-siroe.sun.com
ServerID https-siroe.sun.com
```

2. **BaseDir**/SUNWam/servers/https-admserv/config/magnus.conf ファイルを編集します。次の例に太字で示されているように、User root エントリを User **Userid** に変更します。

コーディング例 3-2 magnus.conf ファイルのサンプル

```
#ServerRoot /opt/SUNWam/servers/https-admserv
NetsiteRoot /opt/SUNWam/servers
ServerID https-admserv
ServerName siroe.sun.com
ErrorLog /opt/SUNWam/servers/https-admserv/logs/errors
```

コーディング例 3-2 magnus.conf ファイルのサンプル (続き)

```

PidLog /opt/SUNWam/servers/https-admserv/logs/pid
User Userid
AdminUsers /opt/SUNWam/servers/https-admserv/config/admpw
MtaHost localhost
DNS off
Security off
ClientLanguage en
AdminLanguage en
DefaultLanguage en
RqThrottle 128
TempDir /tmp/https-admserv-1b510d01
...
#ServerRoot /opt/SUNWam/servers/https-admserv
NetsiteRoot /opt/SUNWam/servers
ServerID https-admserv

```

3. /usr/ldap/slapd-*hostname*/config/dse.ldif ファイルを編集します。次の例に太字で示されているように、nsslapd-localuser: root を nsslapd-localuser: **Userid** に変更します。

コーディング例 3-3 dse.ldif ファイルのサンプル

```

...
dn: cn=config
cn: config
objectClass: top
objectClass: extensibleObject
objectClass: nsslapdConfig
nsslapd-accesslog-logging-enabled: on
nsslapd-accesslog: /usr/ldap/slapd-siroe/logs/access
nsslapd-accesslog-maxlogspersdir: 10
nsslapd-accesslog-maxlogsize: 100
nsslapd-accesslog-logrotationtime: 1
nsslapd-accesslog-logrotationtimeunit: day
nsslapd-enquote-sup-oc: off
nsslapd-localhost: siroe.sun.com
nsslapd-schemacheck: on
nsslapd-rewrite-rfc1274: off
nsslapd-return-exact-case: on
nsslapd-port: 389
nsslapd-localuser: Userid
nsslapd-errorlog: /usr/ldap/slapd-siroe/logs/errors
nsslapd-errorlog-logging-enabled: on
nsslapd-errorlog-maxlogspersdir: 2
nsslapd-errorlog-maxlogsize: 100
nsslapd-errorlog-logrotationtime: 1
...

```

4. /usr/ldap/admin-serv/config/local.conf ファイルを編集します。次の local.conf ファイルのサンプルに示されているように、configuration.nsSuiteSpotUser: root を configuration.nsSuiteSpotUser: **Userid** に変更します。

コーディング例 3-4 local.conf ファイルのサンプル

```
...
configuration.objectClass: nsConfig
configuration.objectClass: nsAdminConfig
configuration.objectClass: nsAdminObject
configuration.objectClass: nsDirectoryInfo
configuration.objectClass: top
configuration.nsServerPort: 8900
configuration.nsSuiteSpotUser: Userid
configuration.nsAdminEnableEnduser: on
configuration.nsAdminEnableDSGW: on
...
```

5. /usr/ldap/admin-serv/config/magnus.conf ファイルを編集します。次の magnus.conf ファイルのサンプルに示されているように、User root エントリを User **Userid** に変更します。

コーディング例 3-5 magnus.conf ファイルのサンプル

```
NetsiteRoot /usr/ldap
ServerID admin-serv
ServerName siroe.sun.com
ErrorLog /usr/ldap/admin-serv/logs/error
PidLog /usr/ldap/admin-serv/logs/pid
User Userid
AdminUsers /usr/ldap/admin-serv/config/admpw
MtaHost localhost
DNS on
Security off
ClientLanguage en
AdminLanguage en
DefaultLanguage en
RqThrottle 128
TempDir /usr/ldap/admin-serv/tmp
```

6. /etc/opt/SUNWps/desktop/desktopconfig.properties を編集します。次の desktopconfig.properties ファイルのサンプルに示されているように、logLevel=message と設定します。

コーディング例 3-6 desktopconfig.properties ファイルのサンプル

```
# Copyright 2001 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved.
# PROPRIETARY/CONFIDENTIAL. Use of this product is subject to
license terms.
#
#####
# Desktop Configuration #
#####
#
# Log level
#
LogLevel=message
#
# Perf (log) level
#
perfLevel=off
#
...
```

7. 次のディレクトリの所有者を root から **Userid:UserGroup** に変更します。次のように入力します。
 - o chown -R **Userid:UserGroup** /etc/opt/SUNWps
 - o chown -R **Userid:UserGroup** /etc/opt/SUNWam
 - o chown -R **Userid:UserGroup** /var/tmp/psdt*
 - o chown -R **Userid:UserGroup** /usr/ldap
 - o chown -R **Userid:UserGroup** /tmp/https*
 - o chown -R **Userid:UserGroup** /opt/SUNWam
 - o chown -R **Userid:UserGroup** /opt/SUNWps
 - o chown -R **Userid:UserGroup** /usr/java_1.3.1_04
 - o chown -R **Userid:UserGroup** /var/sadm/pkg/SUNWamsvc
 - o chown -R **Userid:UserGroup** /var/sadm/pkg/SUNWamws
 - o chown -R **Userid:UserGroup** /var/sadm/pkg/SUNWamds
 - o chown -R **Userid:UserGroup** /var/sadm/pkg/SUNWps
8. /etc/init.d/amserver の 386 行目を編集します。次の例に示されているように、check_root_user メソッド呼び出しの前に # を入力します。

コーディング例 3-7 amserver ファイルのサンプル

```
#!/bin/sh
# PROPRIETARY/CONFIDENTIAL/...
BASE=/opt
DIRBASE=/usr
LDAPDIR=/usr/ldap
PRODUCTDIR=SUNWam
PACKAGEDIR=$BASE/${PRODUCTDIR}
WEBAPPDIR=$BASE/${PRODUCTDIR}/web-apps
SERVICEAPPSDIR=$WEBAPPDIR/services
AGENTAPPSDIR=$WEBAPPDIR/agent

PLATFORMCONFDIR=$PACKAGEDIR/lib
PLATFORMCONF=${PLATFORMCONFDIR}/AMConfig.properties
PLATFORMBINDIR=${PACKAGEDIR}/bin
WTPASSFILE=${PACKAGEDIR}/config/.wtpass
check_root_user () {
  ...skipping
}
# check_root_user
...
```

9. root 以外のユーザとしてディレクトリサーバを再起動します。
10. /etc/init.d/amserver stop を実行します。
11. すべてのプロセスが停止したことを確認します。確認するには、次のように入力します。

```
ps -ef | grep SUNWam
```

```
ps -ef | grep DSBaseDir
```

シャットダウンしなかったプロセスを終了します。

Sun ONE Portal Server の起動

1. スーパーユーザになるか、あるいは *Userid* ユーザとしてログインします。
2. /etc/init.d/amserver start と入力します。

ユーザ nobody として Sun ONE Portal Server を実行するための設定

nobody は (暗号化された) 不当な合成パスワードを持っているので、Sun ONE Portal Server ファイルの所有者として nobody を指定するのは特別な場合です。nobody が所有するファイルを操作して実行するユーザは、root である必要があります。

Sun ONE Portal Server が nobody として稼動することを設定されている場合には、サーバは、デフォルトの Web サーバポートであるポート 8080 で待機するように設定できます。LDAP サーバはデフォルトのポート 389 でも実行できます。

特に指定のないかぎり、すべての手順は root として実行します。Sun ONE Portal Server ソフトウェアをインストールしたあとで、次の操作を行います。

TCP ポートの WAIT 状態の短縮

通常は 240000 ミリ秒 (4 分) に設定されている TCP ドライバのクローズ待ち時間の間隔を短縮します。アプリケーションが正常に動作していない場合、ポートを WAIT 状態のままにすることもできますが、操作を再試行するには 4 分待つことになるからです。

1. 次のように入力して、現在の設定を取得します。

```
# ndd -get /dev/tcp tcp_time_wait_interval
```

2. 次のように入力して、値を 10 秒に設定します。

```
# ndd -set /dev/tcp tcp_time_wait_interval 10000
```

この設定は次の再起動まで有効です。この変更を継続するには、`/etc/rc2.d/S69inet` ファイルを編集して時間を短縮します。

Sun ONE Portal Server インストールの再設定

1. `BaseDir/SUNWam/servers/https-hostname.domain/config/magnus.conf` ファイルを編集します。次の `magnus.conf` ファイルのサンプルに示されているように、User root エントリを User nobody に変更します。

コーディング例 3-8 magnus.conf ファイルのサンプル

```
#ServerRoot /opt/SUNWam/servers/https-siroe.sun.com
ServerID https-siroe.sun.com
ServerName siroe.sun.com
ErrorLog /opt/SUNWam/servers/https-siroe.sun.com/logs/errors
PidLog /opt/SUNWam/servers/https-siroe.sun.com/logs/pid
User nobody
MtaHost localhost
DNS off
Security off
ClientLanguage en
AdminLanguage en
DefaultLanguage en
RqThrottle 1024
StackSize 131072
...
```

2. *BaseDir*/SUNWam/servers/https-admserv/config/magnus.conf ファイルを編集します。次の例に太字で示されているように、User root エントリを User nobody に変更します。

コーディング例 3-9 magnus.conf ファイルのサンプル

```
#ServerRoot /opt/SUNWam/servers/https-admserv
NetsiteRoot /opt/SUNWam/servers
ServerID https-admserv
ServerName siroe.sun.com
ErrorLog /opt/SUNWam/servers/https-admserv/logs/errors
PidLog /opt/SUNWam/servers/https-admserv/logs/pid
User nobody
AdminUsers /opt/SUNWam/servers/https-admserv/config/admpw
MtaHost localhost
DNS off
Security off
ClientLanguage en
AdminLanguage en
DefaultLanguage en
RqThrottle 128
TempDir /tmp/https-admserv-1b510d01
...
```

3. /usr/ldap/slapd-*hostname*/config/dse.ldif ファイルを編集します。次の例に太字で示されているように、nsslapd-localuser: root を nsslapd-localuser: nobody に変更します。

コーディング例 3-10 dse.ldif ファイルのサンプル

```

...
dn: cn=config
cn: config
objectClass: top
objectClass: extensibleObject
objectClass: nsslapdConfig
nsslapd-accesslog-logging-enabled: on
nsslapd-accesslog: /usr/ldap/slapd-siroe/logs/access
nsslapd-accesslog-maxlogsperdir: 10
nsslapd-accesslog-maxlogsize: 100
nsslapd-accesslog-logrotationtime: 1
nsslapd-accesslog-logrotationtimeunit: day
nsslapd-enquote-sup-oc: off
nsslapd-localhost: siroe.sun.com
nsslapd-schemacheck: on
nsslapd-rewrite-rfc1274: off
nsslapd-return-exact-case: on
nsslapd-port: 389
nsslapd-localuser: nobody
nsslapd-errorlog: /usr/ldap/slapd-siroe/logs/errors
nsslapd-errorlog-logging-enabled: on
nsslapd-errorlog-maxlogsperdir: 2
nsslapd-errorlog-maxlogsize: 100
nsslapd-errorlog-logrotationtime: 1
...

```

4. /usr/ldap/admin-serv/config/local.conf ファイルを編集します。次の local.conf ファイルのサンプルに示されているように、
configuration.nsSuiteSpotUser: root を
configuration.nsSuiteSpotUser: nobody に変更します。

コーディング例 3-11 local.conf ファイルのサンプル

```

...
configuration.objectClass: nsConfig
configuration.objectClass: nsAdminConfig
configuration.objectClass: nsAdminObject
configuration.objectClass: nsDirectoryInfo
configuration.objectClass: top
configuration.nsServerPort: 8900
configuration.nsSuiteSpotUser: nobody
configuration.nsAdminEnableEnduser: on
configuration.nsAdminEnableDSGW: on
...

```

5. /usr/ldap/admin-serv/config/magnus.conf ファイルを編集します。次の magnus.conf ファイルのサンプルに示されているように、User root エントリを User nobody に変更します。

コーディング例 3-12 magnus.conf ファイルのサンプル

```
NetsiteRoot /usr/ldap
ServerID admin-serv
ServerName siroe.sun.com
ErrorLog /usr/ldap/admin-serv/logs/error
PidLog /usr/ldap/admin-serv/logs/pid
User nobody
AdminUsers /usr/ldap/admin-serv/config/admpw
MtaHost localhost
DNS on
Security off
ClientLanguage en
AdminLanguage en
DefaultLanguage en
RqThrottle 128
TempDir /usr/ldap/admin-serv/tmp
```

6. /etc/opt/SUNWps/desktop/desktopconfig.properties を編集します。次の desktopconfig.properties ファイルのサンプルに示されているように、logLevel=message と設定します。

コーディング例 3-13 desktopconfig.properties ファイルのサンプル

```
# Copyright 2001 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved.
# PROPRIETARY/CONFIDENTIAL. Use of this product is subject to
license terms.
#
#####
# Desktop Configuration #
#####
#
# Log level
#
logLevel=message
#
# Perf (log) level
#
perfLevel=off
#
...
```

7. 次のディレクトリの所有者を root から **Userid:UserGroup** に変更します。次のように入力します。
 - `chown -R Userid:UserGroup /etc/opt/SUNWps`
 - `chown -R Userid:UserGroup /etc/opt/SUNWam`
 - `chown -R Userid:UserGroup /var/tmp/psdt*`
 - `chown -R Userid:UserGroup /usr/ldap`
 - `chown -R Userid:UserGroup /tmp/https*`
 - `chown -R Userid:UserGroup /opt/SUNWam`
 - `chown -R Userid:UserGroup /opt/SUNWps`
 - `chown -R Userid:UserGroup /usr/java_1.3.1_04`
8. `/etc/init.d/amserver` の 386 行目を編集します。次の例に示されているように、`check_root_user` メソッド呼び出しの前に `#` を入力します。

コーディング例 3-14 amserver ファイルのサンプル

```
#!/bin/sh
# PROPRIETARY/CONFIDENTIAL/...
BASE=/opt
DIRBASE=/usr
LDAPDIR=/usr/ldap
PRODUCTDIR=SUNWam
PACKAGEDIR=$BASE/${PRODUCTDIR}
WEBAPPDIR=$BASE/${PRODUCTDIR}/web-apps
SERVICEAPPSDIR=$WEBAPPDIR/services
AGENTAPPSDIR=$WEBAPPDIR/agent

PLATFORMCONFDIR=$PACKAGEDIR/lib
PLATFORMCONF=${PLATFORMCONFDIR}/AMConfig.properties
PLATFORMBINDIR=${PACKAGEDIR}/bin
WTPASSFILE=${PACKAGEDIR}/config/.wtpass
check_root_user () {
...skipping
}
# check_root_user
...
```

9. `/etc/init.d/amserver stop` と入力します。
10. すべてのプロセスが停止したことを確認します。確認するには、次のように入力します。

```
ps -ef | grep SUNWam
```

```
ps -ef | grep DSBaseDir
```

シャットダウンしなかったプロセスを終了します。

Sun ONE Portal Server の起動

1. スーパーユーザになり、次の手順を行います。
 - a. ディレクトリを *DSBaseDir*/*slapd-hostname* に変更します。
 - b. `start-slapd` と入力します。
2. `nobody` ユーザとして、`/etc/init.d/amserver start` と入力します。
1024 より小さいポート番号を使用している場合には、Web サーバは開始しません。
3. スーパーユーザになり、*BaseDir*/*SUNWam/servers/https-hostname.domain/start* と入力します。
4. サービスを停止するには、`/etc/init.d/amserver stop` と入力します。

サーバのインスタンスの作成と削除

インスタンスは特定のポートで待機するサーバで、1つまたは複数の IP アドレスに結合します。Sun ONE Portal Server では、インスタンスはポートで待機して単一の JVM を実行する Web サーバプロセスに相当します。次の手順に従って、サーバの複数インスタンスを作成します。

1. Sun ONE Portal Server の ユーザインタフェースノードを稼働中のサーバにログインします。
2. スーパーユーザになり、ディレクトリを *BaseDir*/*SUNWps/bin* に変更します。
3. 対話式インストールにするため、`./multiserverinstance` と入力します。
インスタンスのニックネームとサーバの新しいインスタンスのポート番号を入力するプロンプトが表示されます。インスタンス名の入力には英数字だけを使用します(ドットは使用しません)。
4. ブラウザで、次のように入力します。
 - 新しいインスタンスを介して管理コンソールにアクセスする場合、
`http://hostname.domain:instanceportnumber/amconsole`

- 新しいインスタンスを介して Desktop のデフォルト URL にアクセスする場合、`http://hostname.domain:instanceportnumber/portal/`

注 追加のサーバインスタンスを作成し、それらを root 以外のユーザまたは nobody ユーザとして実行する場合は、**DSAME_BaseDir** /SUNWam/bin/amserver. *instance-nickname* の各インスタンスのインスタンス開始スクリプトで、`check_root_user` への呼び出しをコメントにする必要があります。

インスタンスを削除するには次の手順に従います。

1. Sun ONE Portal Server ソフトウェアを稼働中のサーバにログインします。
2. スーパーユーザになり、ディレクトリを **BaseDir** /SUNWps/bin に変更します。
3. `./multiserverinstance delete -instance InstanceNickname` と入力します。

次の操作

この節では、次の項目について説明します。

- Sun ONE Portal Server インストールの 妥当性検査
- Sun ONE Portal Server 管理コンソールと Desktop へのアクセス
- Portal Server の管理

Sun ONE Portal Server インストールの妥当性検査

Sun ONE Portal Server のインストールが正常に終了したことを確認するために、サーバを開始して、プロセスが正常に稼働および待機するかを検証します。

1. サーバにログインしてスーパーユーザになります。
2. Sun ONE Portal Server を開始します。次の手順を行います。
 - a. ディレクトリを **BaseDir**/SUNWam/bin に変更します。

- b. iPlanet™ Directory Server Access Management Edition を開始します。次のように入力します。

```
# ./amserver start
```

注 Portal Server を開始するには、iPlanet Directory Server Access Management Edition を開始する必要があります。

3. すべての Sun ONE Portal Server プロセスが正常に動作することを検証します。次のように入力します。

- a. Sun™ ONE Web Server はポート 80 (デフォルト) で稼動している必要があります。

```
# pgrep ns-httpd
```

Sun ONE Portal Server は複数の Web サーバインスタンスを使用するので、このコマンドは複数のプロセス ID を返します。

- b. Sun ONE Web Server がポート 80 (デフォルト) で待機していることを検証します。

```
# netstat -an | grep LISTEN | grep "*\*\.\.80\>"
```

このコマンドは、ポート 80 で稼動するオープンソケットがあることを示す行を返します。

- c. Sun™ ONE Directory Server が稼動している必要があります。

```
# pgrep ns-slaped
```

このコマンドは Sun ONE Directory Server の単一プロセス ID を返します。

- d. doUnix ヘルパがポート 8946 で稼動している必要があります。

Sun ONE Portal Server 管理コンソールと Desktop へのアクセス

次の手順に従って、Sun ONE Portal Server のインストールが正常に行われたことを検査します。

iPlanet Directory Server Access Management Edition 管理コンソールへのアクセス

1. ブラウザを開きます。
2. `http://hostname.domain:port/amconsole` と入力します。
3. 管理者名とパスワードを入力して管理コンソールを表示します。

これは iPlanet Directory Server Access Management Edition ソフトウェアをインストールしたときに指定した名前とパスワードです。

サンプル Desktop へのアクセス

インストール時に入力したデフォルトの組織について、ソフトウェアは、Desktop サービスの設定、テンプレートの作成、その組織のユーザへの Desktop ポリシーの作成と割り当てを行います。ログオンするユーザを組織に作成するか、あるいはユーザを作成せずに匿名ログインを使用することができます。

1. ブラウザを開きます。
2. 次のように入力してデフォルトの URL にアクセスします。
`http://hostname.domain:port/portal`
3. ユーザ名とパスワードを入力して Desktop にログインします。

Portal Server の管理

Secure Socket Layer (SSL) を設定するには、『Sun ONE Portal Server 6.0 管理者ガイド』の第 8 章を参照してください。

ポータルサーバのユーザインタフェースノードの複数のインストールを管理するには、『Sun ONE Portal Server 6.0 管理者ガイド』の第 8 章を参照してください。

次の操作

Sun ONE Portal Server の アンインストール

この章では、1つまたは複数のソフトウェアコンポーネントを削除する方法について説明します。1つまたは複数のソフトウェアとそのコンポーネントをアンインストールするには、次の手順に従います。

1. マシンへログインしスーパーユーザになります。
Sun™ ONE Portal Server ソフトウェアと関連するコンポーネントをアンインストールするには、root のアクセス権が必要です。
2. インストールプログラムがあるディレクトリに移動します。
3. `./pssetup` と入力します。
4. アンインストールメニューが表示されます。
 - Sun ONE Portal Server のみ削除 - インストールプログラムは Sun ONE Portal Server ソフトウェアだけをアンインストールする
 - Sun™ ONE Directory Server のみ削除 - インストールプログラムは Sun ONE Directory Server ソフトウェアだけをアンインストールする
 - iPlanet™ Directory Server Access Management Edition のみ削除 - インストールプログラムは iPlanet Directory Server Access Management Edition ソフトウェアだけをアンインストールする
 - 移行ツールのみ削除 - インストールプログラムは移行ツールだけをアンインストールする
 - すべて削除 - インストールプログラムは Sun ONE Portal Server ソフトウェアと関連するすべてのコンポーネント (Sun ONE Directory Server、iPlanet Directory Server Access Management Edition、および Sun™ ONE Web Server を含む) をアンインストールする

5. アンインストールオプションを選択します。

Sun ONE Portal Server の チューニング

この章では、Sun™ ONE Portal Server のパフォーマンスおよび容量を最適化する設定パラメータについて説明します。Sun ONE Portal Server に組み込まれている `perftune` スクリプト (`BaseDir/SUNWps/bin` ディレクトリ内) は、この章で説明するチューニングプロセスのほとんどを自動的に実行します。

はじめに

`perftune` スクリプトには次の機能があります。

- Solaris のカーネルと TCP の設定をチューニングする。「Solaris のチューニング」を参照してください。
- 各製品の次の設定ファイルを変更する
 - 「Sun ONE Web Server 6.0 のチューニング」:
 - `BaseDir/SUNWam/servers/WebServerInstance/config/magnus.conf`
 - `BaseDir/SUNWam/servers/WebServerInstance/config/jvm12.conf`
 - `BaseDir/SUNWam/servers/WebServerInstance/config/web-apps.xml`
 - `BaseDir/SUNWam/servers/WebServerInstance/config/server.xml`
 - `BaseDir/SUNWam/servers/https-admserv/start-jvm`
 - 「Sun ONE Directory Server のチューニング」:
 - `/usr/ldap/slapd-invierno/config/dse.ldif`
 - 「iPlanet Directory Server Access Management Edition のチューニング」:
 - `BaseDir/SUNWam/config/ums/serverconfig.xml`

- `BaseDir/SUNWam/lib/AMConfig.properties`
 - 「Sun ONE Portal Server Desktop のチューニング」
- `/etc/opt/SUNWps/desktop/desktopconfig.properties`
- Sun ONE Portal Server Desktop サービス、および iPlanet Directory Server Access Management Edition の認証サービスのプロパティを変更する

チューニング方法

`perftune` スクリプトを実行する場合、最適稼働および最大稼働と呼ばれる 2 つの標準的な使用シナリオに対してパフォーマンスチューニングオプションが提供されます。これらのシナリオは、Sun ONE Portal Server 使用パターンの大部分を処理するように定義されています。これらの配備シナリオには、次のような特徴があります。

- 最適稼働：
 - 高レベルの同時ユーザ要求
 - 少数の接続ユーザ (1 インスタンスにつき数百ユーザ)
 - CPU 結合
 - JVM パフォーマンスの最大要因はスループットとプロンプトネス
 - 短期オブジェクトライフタイム分布の優位性
- 最大稼働：
 - 低レベルの同時ユーザ要求
 - 多数の接続ユーザ (1 インスタンスにつき数千ユーザ)
 - メモリー結合
 - JVM パフォーマンス最大要因は JVM メモリー容量
 - 長期オブジェクトライフタイム分布の優位性

たとえば、企業ポータルに対するビジネスのピーク時には、多数の企業の雇用者が最大稼働環境で同時にポータルに接続します。

メモリ割り当て

JVMごとに割り当てる大容量メモリは、次の2つのパラメータによって決定されます。

1. CPUごとの物理メモリの最大サイズ。E45*クラスのマシンでは、約1Gバイト
2. パフォーマンスおよびスケーラビリティを得るために推奨されるCPU対インスタンス数は、Sun ONE Portal Serverの最適なパフォーマンスには、従来どおり1:1(1CPU対1インスタンス)です。最大稼働を得るためには、比率1:2(2CPU対1インスタンス)が適していて、これによりJVMヒープサイズを最大2Gバイトにできます。

チューニングを実行するJVMパフォーマンスマトリックスでは、スループット、フットプリント、およびプロンプトネスは、次のように定義されます。

	スループット	フットプリント	プロンプトネス
最適稼働	高い	低クリティカル	高い
最大稼働	低クリティカル	低い	低クリティカル

説明：

- スループットはGCに使用しない時間
- フットプリントはプロセスのワーキングセット
- プロンプトネスはオブジェクトが無効になり、そのメモリが開放されるまでの時間

チューニング手順

perftune スクリプトを実行する場合、次のチューニングの推奨事項を実行するかどうかを指定できます。推奨事項を注意深く検討し、perftune スクリプトを使用して、推奨されるこれらの変更を実行します。

perftune スクリプトは、次の手順で行います。

1. マシンへログインし、スーパーユーザになります。

このスクリプトを実行するには、rootのアクセス権が必要です。

2. ディレクトリを **BaseDir/SUNWps/bin** に変更します。
3. **./perftune** と入力します。

チューニングプロセスの間、perftune スクリプトがサーバの開始および停止の操作を実行します。このスクリプトにより、**filename-orig-date-pid** 形式で、修正ファイルのバックアップコピーが作成されます。スクリプトを実行したあと、チューニングの変更を反映させるため、システムを再起動します。

Solaris のチューニング

カーネルのチューニング

/etc/system ファイルに対して、スクリプトは次の設定を追加します。

- ファイル記述子制限 - オープンファイル数制限
 - set rlim_fd_max=16384
 - set rlim_fd_cur=16384
- ストリームキューサイズ - あて先のストリームキューが QFULL を生成する前の syncq (メッセージ数) の深さ
 - set sq_max_size=0
- TCP 接続ハッシュサイズ (<= ファイル記述子)
 - set tcp:tcp_conn_hash_size=8192

TCP パラメータのチューニング

/dev/tcp で TCP パラメータ (カッコ内) への変更に含まれるのは次のとおりです。

- TCP 時間待機間隔 (tcp_time_wait_interval) - 接続の終了後に TCP ソケットが TIME_WAIT 状態の期間を 60000 に設定する
- TCP 終了待機 2 間隔 (tcp_fin_wait_2_flush_interval) - 接続の終了後に TCP ソケットが FIN_WAIT_2 状態の期間を 60000 に設定する
- TCP 最大接続サイズ (tcp_conn_req_max_q) - 完全に確立された接続の最大値を 8192 に設定する
- TCP リストキュー (tcp_conn_req_max_q0) - 確立されていない接続を含めたキューのサイズを 8192 に設定する
- TCP パケットドロップ時間 (tcp_ip_abort_interval) - パケットがドロップする前の期間を 60000 に設定する

- TCP キープアライブ間隔 (`tcp_keepalive_interval`) - 90000 に設定する
- TCP 最大再送間隔 (`tcp_rexmit_interval_max`) - 6000 に設定する
- TCP 最小再送間隔 (`tcp_rexmit_interval_min`) - 3000 に設定する
- TCP 初期再送間隔 (`tcp_rexmit_interval_initial`) - 500 に設定する
- TCP 最小匿名ポート (`tcp_smallest_anon_port`) - 1024 に設定する
- スロースタートアルゴリズムの TCP 初期パケット (`tcp_slow_start_initial`) - 2 に設定する
- TCP 送信 / 受信バッファサイズ制限 (`tcp_xmit_hiwat` and `tcp_recv_hiwat`)
- それぞれ 32768 に設定する

システムを再起動する際、`ndd` コマンドを自動的に実行するには、`perftune` スクリプトが `S99nnds_tcp` ファイルを `/etc/rc2.d/` ディレクトリにコピーします。

iPlanet Directory Server Access Management Edition のチューニング

Directory Server 接続プール

`BaseDir/SUNWam/config/ums/serverconfig.xml` ファイルの変更内容は次のとおりです。

- 接続プールサイズの最小値を 10 に増やす
- 接続プールサイズの最大値を 90 に増やす

LDAP 認証サービス

- LDAP 接続プールのデフォルトサイズ (最大:最小) を 10:90 に更新する

LDAP 認証

- 「DN to Start User Search (ユーザ検索を開始する DN)」を `ou=people,o=<organization>,o=isp` に指定する
- 「Search Scope (検索範囲)」を OBJECT に指定する

iPlanet Directory Server Access Management Edition サービス設定 パラメータ

`BaseDir/SUNWam/lib/AMConfig.properties` ファイルの変更内容は次のとおりです。

- `com.ipplanet.am.logstatus` を `INACTIVE` に指定する
- 同時に実行するセッションの予測数がこの値を超過する場合、`com.ipplanet.am.session.maxSession` (デフォルトで 50000) を増やす
- `com.ipplanet.am.session.httpSession.enabled` を無効にする

Sun ONE Directory Server のチューニング

Sun™ ONE ディレクトリサーバを他のアプリケーションと共有する場合、パラメータが他のアプリケーションのパラメータと衝突しないようにチューニングし、確認する必要があります。

`/tmp/slapd-dsame1` には、十分な仮想メモリスペースを提供する必要があります。また、ページングを避けるために、データベースキャッシングに割り当てた分を含む使用メモリの総容量は、物理メモリーサイズを超過してはなりません。どのイベントでも、`slapd` プロセス自体に使用される `nsslapd-dbcachesize + nsslapd-cachememsize + fixed memory` の累積値は、プロセスアドレススペースの 4G バイトを超過できません。Nslapd は 32 ビットのアプリケーションです。

リソースプール (接続およびスレッド) のサイジングに関しては、Sun ONE Directory Server によって、オペレーションの検索タイプに対して 15 前後の同時レベルで最良のパフォーマンスが提供されます。

`perftune` スクリプトは、`ns-slapd` スレッディング、`db cache`、および `/usr/ldap/slapd-hostname/config/dse.ldif` ファイルにマッピングするデータベースファイルシステムを次のようにチューニングします。

- `dn: cn=config LDAP` エントリ の下に入力する項目
 - `nsslapd-threadnumber` 行を `nThreads` に追加する。プロファイル変更 (LDAP の書き込み) が想定される場合を除き、ほとんどの場合はデフォルト値 (30) の使用が適切であり、スクリプトには次の式が適用される
$$nThreads = 30 \text{ for } 1 \text{ CPU}, nThreads = 45 \text{ for } 2 \text{ CPUs}, nThreads = 60 \text{ for } 3 \text{ CPUs}, nThreads = 90 \text{ for } 4 \text{ CPUs}.$$
 - `nsslapd-accesslog-logging-enabled` をオフに指定し、アクセスログを使用不可にする

- dn: cn=config,cn=ldb database,cn=plugins,cn=config LDAP エントリの下に入力する項目
 - nsslapd-db-home-directory 行を /tmp/slapd-dsame1 に追加する
 - nsslapd-maxthreadsperconn 行を 20 に変更する
 - 行 nsslapd-dbcachesize を newSize に変更する。ここでは、newSize = 1.2 * が /usr/ldap/slapd-*hostname*/db/userRoot の下に位置するすべての db3 ファイルのサイズである
- 以下の dn: cn=userRoot,cn=ldb database,cn=plugins,cn=config LDAP エントリは、行 nsslapd-cachememsize を newSize へ変更する。ここでは、id2entry.db3 のサイズは newSize = 3 * である

注 Sun ONE Directory Server を手動でチューニングする場合、これらのパラメータをチューニングする前に Sun ONE Directory Server を停止する必要があります。

Sun ONE Web Server 6.0 のチューニング

次に、perftune スクリプトが提供する JVM のチューニングについて説明します。JVM のチューニングによって、最適稼働、および最大稼働環境において Sun™ ONE Web Server を Sun ONE Portal Server パフォーマンスにチューニングするよう支援します。

最適稼働

ヒープサイズ

ヒープサイズは、注目すべき重要なオプションです。ここでのパラメータの詳細については、Sun ONE Web Server のチューニングマニュアルを参照してください。perftune スクリプトは次のとおりです。

1. *BaseDir*/SUNWam/servers/https-*hostname*/config に配置されている magnus.conf に、次のように指定します。
 - RqThrottle 256
 - StackSize 393216
 - ThreadIncrement 20
 - ConnQueueSize 20000

2. **BaseDir**/SUNWam/servers/https-*hostname*/config に配置されている web-apps.xml に、次のように指定します (修正箇所は太字)。

- web-app タグの上に次のセッションマネージャを定義する

```
<session-manager
class="com.ipplanet.server.http.session.IWSSessionManager>
```

```
<init-param>
```

```
<param-name>maxSessions</param-name>
```

```
<param-value>50000</param-value>
```

```
</init-param>
```

```
<init-param>
```

```
<param-name>timeOut</param-name>
```

```
<param-value>360</param-value>
```

```
</init-param>
```

```
<init-param>
```

```
<param-name>reapInterval</param-name>
```

```
<param-value>180</param-value>
```

```
</init-param>
```

```
</session-manager>
```

- 予定された同時セッション数がこの値を超えた場合、maxSession (デフォルトは 50000) を増やす
- クラスのリロード間隔を 5 分 (デフォルトは 30 秒) に定義する

```
<class-loader classpath="["...] " delegate="false"
reload-interval="300"/>
```

3. JVM のチューニングをするために

BaseDir/SUNWam/servers/https-*hostname*/config にある jvm12.conf ファイルに次のように指定します。

- jvm.minHeapSize=1073741824
- jvm.maxHeapSize=1073741824
- jvm.option=-Xrs
- jvm.option=-server
- jvm.option=-XX:MaxPermSize=128M
- jvm.option=-XX:PermSize=128M

- `jvm.option=-XX:+OverrideDefaultLibthread`
 - `jvm.option=-XX:MaxNewSize=256M`
 - `jvm.option=-XX:NewSize=256M`
4. 代替の T2 libthread に対して、`start-jvm` ファイルに次のように指定します。

```
NSES_JRE_RUNTIME_LIBPATH=/usr/lib/lwp:${NSES_JRE}/lib/sparc/server:
${NSES_JRE}/lib/sparc:${NSES_JRE}/lib/sparc/classic:${NSES_JRE}/lib
/sparc/native_threads;export NSES_JRE_RUNTIME_LIBPATH
```

最大稼働

1. **BaseDir/SUNWam/servers/https-*hostname*/config** に格納されている `magnus.conf` に次のように指定します。
 - `RqThrottle 256`
 - `StackSize 131072`
2. **BaseDir/SUNWam/servers/https-*hostname*/config** に格納されている `web-apps.xml` ファイルに、次のように指定します。
 - `web-app` タグの上に次のようにセッションマネージャを定義する

```
<session-manager
class="com.iplanet.server.http.session.IWSSessionManager>
  <init-param>
    <param-name>maxSessions</param-name>
    <param-value>50000</param-value>
  </init-param>
  <init-param>
    <param-name>timeOut</param-name>
    <param-value>360</param-value>
  </init-param>
  <init-param>
    <param-name>reapInterval</param-name>
    <param-value>180</param-value>
  </init-param>
</session-manager>
```

- 予定された同時セッション数がこの値を超過する場合、maxSession (デフォルトは 50000) を増やす

3. JVM のチューニングのために、**BaseDir/SUNWam/servers/https-*hostname*/config** にある `jvm12.conf` ファイルに、次のように指定します。

```
jvm.minHeapSize=1073741824
jvm.maxHeapSize=2147483648
jvm.option=-Xrs
jvm.option=-server
jvm.option=-XincGC
jvm.option=-XX:+UseLWPSynchronization
jvm.option=-XX:MaxPermSize=128M
jvm.option=-XX:PermSize=128M
jvm.option=-XX:+OverrideDefaultLibthread
jvm.option=-XX:MaxNewSize=256M
jvm.option=-XX:NewSize=256M
```

4. `start-jvm` ファイルで、代替の T2 libthread に対して次のように指定します。

```
NSES_JRE_RUNTIME_LIBPATH=/usr/lib/lwp:${NSES_JRE}/lib/sparc/server:
${NSES_JRE}/lib/sparc:${NSES_JRE}/lib/sparc/classic:${NSES_JRE}/lib
/sparc/native_threads;export NSES_JRE_RUNTIME_LIBPATH
```

注 JVM メモリーのヒープサイズは、最小 1 G バイト、最大 2 G バイトです。ヤングジェネレーションは最適稼動に比例して小さくなるため、接続ユーザは、より多くのスペースを利用できます。

インクリメンタル (または Train) GC が最大稼動により適しているのは、GC の速度より、オールドジェネレーションのサイズが大ききことによる間隔の長さのほうが影響が大きいためです。

Sun ONE Portal Server Desktop のチューニング

最適稼働

- Desktop セッションを最適化するには、Enable XML Parsing Validation を使用不可にする

Desktop セッションは、iPlanet Directory Server Access Management Edition SSOToken セッションとは異なり、接続ができません。iPlanet Directory Server Access Management Edition セッションの期限が切れる前にデスクトップセッションがタイムアウトになる場合、照会があると、Desktop はデスクトップセッションを透過的に再構築します。デスクトップセッションのアイドルタイムアウトを減らすことによって、短いユーザセッションを特徴とする最適稼働を想定して、セッションオブジェクトに使用されるメモリーが開放されます。

- Provider Caller Resource Pooling を最適化するには、`/etc/opt/SUNWps/desktop/desktopconfig.properties` ファイルの指定を次のように変更する
 - `callerPoolMinSize` を 128 に増やす
 - `callerPoolMaxSize` を 512 に増やす
 - `callerPoolPartitionSize` を 16 に増やす
 - `templateScanInterval` を 3600 に増やす

最大稼働

Provider Caller Resource Pooling を最適化するには、`/etc/opt/SUNWps/desktop/desktopconfig.properties` ファイルの指定を次のように変更する

- `callerPoolMinSize` を 128 に増やす
- `callerPoolMaxSize` を 512 に増やす
- `callerPoolPartitionSize` を 16 に増やす
- `templateScanInterval` を 3600 に増やす

用語集

ACI 「アクセス制御命令」を参照。

API 「アプリケーションプログラムインタフェース」を参照。

CA 「認証局 (CA)」を参照。

Compass iPlanet Portal Server 3.0 で検索機能を提供していた検索エンジンサービス。Sun ONE Portal Server 6.0 のコアには、検索エンジンが組み込まれている。「検索エンジン」を参照。

DNS 「Domain Name Service」を参照。

Domain Name Service (DNS) 分散した名前とアドレスの検索メカニズムであり、ドメイン名 (例 siroe.com) を IP アドレス (例 1.2.3.4) に変換する。また、逆方向の検索により、IP アドレスをドメイン名に戻すこともできる。

Extensible Markup Language (XML) プログラム言語の 1 つである XML は、基本的に SGML の簡易バージョンである。これにより Web 開発者はカスタマイズされたタグの生成が可能となり、コンテンツの整理および配信をより効率的に行うことができる。XML は、別のマークアップ言語を構築するための規則のセットを含んだメタ言語。独自のタグを生成できるので、ドキュメントに含まれるデータに関して提供する情報の量、および種類を増やすことができる。

Extensible Style Language (XSL) HTML で使用されるカスケーディングスタイルシート (CSS) と同様のスタイルシートを、XML 用に作成するために使用する言語。XML では、コンテンツとプレゼンテーションが分離されている。XML タグでは、これらをどのように表示するかは指定されない。XML ドキュメントはフォーマットしなければ読み込むことができない。通常の場合、スタイルシートを使用して行われる。スタイルシートは、ドキュメントをコンピュータ画面に表示および印刷するときに、特定の XML タグがどのように作用するかを定めたフォーマット規則で構成されている。

Extensible Style Language Transformation (XSLT) XML スタイルシートで、1 つの XML ドキュメント形式を、別の XML 形式に変換するために使用する言語。この変換は、多くの異なったプラットフォームや、多様な XML 文書コーディングで共通の基盤となるため、E コマースや E ビジネスでは極めて有益。

Foundation Profile CDC とともに、J2ME アプリケーションの実行時環境を提供する、次世代の家庭電化製品および組み込み型デバイス为目标とした API のセット。

FTP 「ファイル転送プロトコル」を参照。

FQDN 「完全指定のドメイン名」を参照。

HTML 「ハイパーテキストマークアップ言語」を参照。

HTTP 「ハイパーテキストトランスポートプロトコル」を参照。

HTTPS 「ハイパーテキストトランスポートプロトコルセキュア」を参照。

IMAP 「インターネットメッセージアクセスプロトコル」を参照。

IP 「インターネットプロトコル」を参照。

iPlanet Compass Server iPlanet Portal Server 3.0 で典型的に使用されていた、ネットワークリソースへのユーザアクセスを向上させるための iPlanet 技術。Sun ONE Portal Server 6.0 には、固く統合された検索エンジンが含まれ、iPlanet Compass Server が iPlanet Portal Server 3.0 で提供していた機能性を備えている。

iPlanet Directory Server Access Management Edition ユーザおよびサービスの管理、認証、シングルサインオンサービス、ポリシー管理、ロギングサービス、デバッグユーティリティ、管理コンソール、およびクライアントサポートインタフェースを、Sun ONE Portal Server に提供する。

J2ME 「Java 2 Platform, Micro Edition」を参照。

JATO Java と XML を相互に変換するライブラリ。

Java Sun Microsystems が開発した、プラットフォームから独立している、オブジェクト指向のプログラミング言語。現代のプログラミングにおける多くの問題を解決する。

Java 2 Platform, Micro Edition (J2ME) モバイルデバイスに適した小型アプリケーション環境。

Java Development Kit (JDK) Java アプレットまたはアプリケーションプログラムを記述するためのソフトウェアツール。

JDK 「Java Development Kit」を参照。

JSP Java Server Page

JSS 「Network Security Services for Java」を参照。

LDAP 「Lightweight Directory Access Protocol」を参照。

LDAP Data Interchange Format (LDIF) Directory Server のエントリを、テキスト形式で表記するために使用する形式。

LDIF 「LDAP Data Interchange Format」を参照。

Lightweight Directory Access Protocol (LDAP) TCP/IP および複数のプラットフォーム上で動作するように設計された、ディレクトリサービスのプロトコル。X.500 Directory Access Protocol (DAP) の簡略版であり、ユーザプロファイル、配布リスト、設定データなどの情報を、1つの管理ポイントで保存、取得、および配布することができる。Sun ONE Directory Server は LDAP プロトコルを使用する。

NetFile ユーザによるファイルシステムへのリモートアクセス、およびファイルやディレクトリのリモート操作を可能にする、Java ベースのファイルサーバアプリケーション。

netlet Sun ONE Portal Server で使用される Java アプレット。このアプレットにより、TCP/IP ベースのアプリケーションは、認証済みの Sun ONE Portal Server 接続を介してサーバに安全に接続できる。

NetMail NetMail のコンポーネントによって、NetMail (Java) および NetMail Lite 電子メールクライアントを実現する。これらのクライアントは、標準の IMAP/SMTP サーバで動作する。

Network Security Services for Java (JSS) ネットワークセキュリティサービスの Secure Socket Layer ライブラリに、Java の割り当てを提供。Sun ONE Portal Server はこのクラスライブラリを使用して、サーブレットからの Secure Socket Layer 接続の開始、および Sun ONE Portal Server Secure Remote Access Pack ゲートウェイでの Secure Socket Layer 接続の承認を行う。

PDC 「個人デジタル証明書」を参照。

PKI 「公開キーインフラストラクチャ」を参照。

RAF 「ロボットアプリケーション関数」を参照。

RD 「リソース記述」を参照。

RDM 「リソース記述メッセージ」を参照。

Secure Socket Layer (SSL) 安全で低レベルな暗号形式であり、HTTP や FTP など、そのほかのプロトコルによって使用される。SSL プロトコルには、サーバの認証、送信データの暗号化、およびオプションによるクライアントの認証の規約が含まれている。Sun ONE Portal Server で使用されるバージョンは、RSA の公開キーと非公開キーの暗号化のほか、デジタル証明書も使用している。

Server Message Block (SMB) プロトコル ファイルの読み取りや書き込み方法、およびコンピュータネットワーク内のサーバプログラムによって提供されるサービスを要求する方法を、コンピュータのクライアントアプリケーションに提供するプロトコル。SMB プロトコルは、インターネットの TCP/IP プロトコル、あるいは Internetwork Packet Exchange や NetBEUI を含むほかのネットワークプロトコルの、上位プロトコルとして使用することができる。Sun ONE Portal Server では SMB を NetFile 用に使用する。

Simple Mail Transfer Protocol (SMTP) Sun ONE Messaging Server がサポートする、インターネットでもっとも一般的に使用される電子メールプロトコル。RFC 821 に定義されており、対応するメッセージ形式の説明が RFC 822 にある。

Simple Network Management Protocol (SNMP) ネットワークのホストをリモートで監視および設定するためのネットワーク管理プロトコル。

Simple Object Access Protocol (SOAP) 一元化されていない分散された環境で情報を交換するための、軽量化されたプロトコル。SOAP は XML ベースのプロトコル。

SMB プロトコル 「Server Message Block (SMB) プロトコル」を参照。

SMTP 「Simple Mail Transfer Protocol」を参照。

SMTP プロキシ ネットワーク上の特定のマシンから別のマシンにメッセージを送信する SMTP の形式であり、電子メールを転送するためにインターネット上で使用される。

SNMP 「Simple Network Management Protocol」を参照。

SOAP 「Simple Object Access Protocol」を参照。

SOIF 「Summary Object Interchange Format」を参照。

SOIF 属性 検索データベース内のリソース記述には、複数の属性またはフィールドがある。これらの属性は SOIF 属性と呼ばれる。

SSL 「Secure Socket Layer」を参照。

SSL 証明書 PKI を使用して、ユーザまたはベンダーがトランザクションの暗号化および復号化を承認したことを示す電子トークン。Sun ONE Portal Server ソフトウェアのインストール時に自己署名済みの SSL 証明書を作成する。ただし、インターネット上で安全な通信サービスを承認する証明書ベンダーから SSL 証明書を取得することも可能。

SSO 「シングルサインオン」を参照。

Standard Generalized Markup Language (SGML) ドキュメントにタグ付けして、多数の形式要素に適用する方法。

Summary Object Interchange Format (SOIF) Harvest の Summary Object Interchange Format は、リソース記述およびそのほかの構造化されたオブジェクトを伝送するための構文。各リソース記述は、属性と値をペアにしたリストとして SOIF に表記される。SOIF は、テキストおよびバイナリデータの両方、および部分的に拡張された複数の値を持つ属性の一部を値として処理する。つまり SOIF は、多くのリソース記述を単一の効率的なストリームとして、大量に伝送することを可能にするストリーミング形式。

Sun ONE Directory Server Sun ONE Portal Server の基本設定、およびユーザプロファイルのデータリポジトリを提供する。Sun ONE Portal Server システムにインストールされていない場合は、iPlanet Directory Server Access Management Edition 製品によってインストールが行われる。

Sun ONE Portal Server リモートユーザが、組織のネットワークおよびサービスへ、インターネット経由で安全にアクセスできるようにする。また、対象とする従業員、ビジネスパートナー、または不特定多数の人々が、コンテンツ、アプリケーション、およびデータにアクセスできる、安全なインターネットポータルも作成する。

これは一連の Sun ONE Portal Server プロダクトソリューションの「コア」部分とも呼ばれ、すべての Sun ONE Portal Server パックに含まれている。

Sun ONE Portal Server Desktop 簡単に「Desktop」とも呼ばれる。エンドユーザインタフェース、および Content Provider Interface (PAPI) を通じて、拡張可能なコンテンツの集合メカニズムを提供する。Desktop には、コンテナ階層、および一部のタイプのチャンネルを構築するための、構成要素を提供する各種のプロバイダが含まれる。Desktop は、コンテンツプロバイダおよびチャンネルデータ

を保存するために使用する、iPlanet Directory Server Access Management Edition サービスの表示プロファイルデータ保存メカニズムを実装する。Desktop には、表示プロファイル、およびほかの Desktop サービスのデータを編集するための、管理コンソールモジュールも含まれる。

Sun ONE Portal Server Instant Collaboration Pack サーバ、マルチプレクサ、Sun ONE Instant Messenger の各コンポーネントを含む、Sun ONE のインスタントメッセージング製品。Sun ONE Instant Messaging Server とも呼ばれる。

Sun ONE Portal Server Pack Sun ONE Portal Server のアドオン製品を示す一般的な名称。現行のパックには、Secure Remote Access Pack、Mobile Access Pack、および Personalized Knowledge Pack が含まれている。

Sun ONE Web Server Sun ONE Portal Server では、これを Sun ONE Portal Server および Sun ONE Portal Server パックの Web アプリケーションの Web コンテナとして使用する。Sun ONE Web Server は、iPlanet Directory Server Access Management Edition 製品に含まれている。

TCP 「伝送制御プロトコル」を参照。

TCP/IP 「伝送制御プロトコル / インターネットプロトコル」を参照。

telnet インターネットプロトコルスイートの仮想端末プロトコル。あるホストのユーザがリモートホストにログインし、そのホストの通常の端末ユーザとして作業することができる。

telnet プロキシ telnet クライアントと telnet サーバ間に位置するアプリケーションであり、インテリジェント中継を行う。

Uniform Resource Indicator (URI) サーバ上にあるリソースの、パスおよびファイル名を指定する標準的な方法。サーバは、URI をそのオペレーティングシステム固有の形式に変換する。

Uniform Resource Locator (URL) インターネット上で特定アドレスの位置を検索するコード。

URI 「Uniform Resource Indicator」を参照。

URL 「Uniform Resource Locator」を参照。

URL プール ロボットが処理する URL のリスト。ロボットがスタートする時点では、URL プールは開始点で構成されているが、列挙の間に検出されたリソースによって即座に拡張される。

VPN 「仮想プライベートネットワーク」を参照。

VPN ゲートウェイ VPN のエントリポイント。通常はファイアウォールによって保護されている。

Web サーバ HTTP、FTP などの Web 要求に応答するアプリケーション。

World Wide Web インターネット上のサーバのネットワーク。情報提供を行うほか、ハイパーテキストのリンクを含むことにより、サーバ内または外部のサーバに存在するほかのドキュメントに移動することもできる。

XML 「Extensible Markup Language」を参照。

XSL 「Extensible Style Language」を参照。

XSLT 「Extensible Style Language Transformation」を参照。

アイドル ロボットは動作しているが、URL プール内の URL すべての処理を完了した状態。この状態でも、ロボットは状態要求に応答することができる。

アクセス制御命令 (ACI) iPlanetTM Directory Server Access Management Edition で、アクセス制御をどのように処理するかを記述する。

アドレス ネットワーキングにおいて、ネットワークのノードを識別する一意のコード。host1.siroe.com などの名前は、Domain Name Service (DNS) によって「ドット区切りの 4 つの数値」アドレス (例 1.2.3.4) に変換される。

アプリケーションプログラムインタフェース (API) 既存のソフトウェアパッケージのプログラムがサービスを呼び出す方法を定義した呼び出し規則、または命令のセット。

アプレット Web ブラウザ内で実行できるように Java プログラミング言語で記述されたプログラム。Sun ONE Portal Server には NetFile および NetMail の例が組み込まれている。

暗号化 情報を解読不可能にすることで、未承認のアクセスから情報を保護するプロセス。キーと呼ばれるコードを使用して情報を暗号化する手法もある。復号化と対になる。

一致カテゴリ 検索クエリと一致するカテゴリ。これは検索を行った結果として返される。

一致ドキュメント 検索クエリと一致するドキュメント。これは検索を行った結果として返される。

インターネット TCP/IP プロトコルを使用するネットワークを、世界規模で接続したネットワークに与えられた名称。

インターネットプロトコル (IP) 世界規模でネットワークをリンクするための TCP/IP スイートのプロトコル。米国国防省で開発され、インターネットで使用されている。このスイートの傑出した機能が IP プロトコル。

インターネットメッセージアクセスプロトコル (IMAP) これを使用するとメールボックスやフォルダに対しリモートでアクセスできる。POP と異なり、IMAP クライアントは、一部またはすべてのメッセージとフォルダをサーバに残し、そのサーバからすべてのメッセージをダウンロードする。

インデックス 一元化されていて検索可能な、リソースまたはドキュメントのデータベース。カタログとも呼ばれる。

インデックス作成 一元化されて検索可能な、リソースのデータベースを提供するプロセス。カタログ作成とも呼ばれる。

インポート 新規または更新されたリソース記述を、別のデータベースから検索エンジンに取り込むプロセス。

インポートエージェント インポートに使用するプロセス。

エイリアシング 異なるスキーマを持つ検索エンジンからリソース記述をインポートするときに、エイリアシングを使用する Sun ONE Portal Server 検索エンジンで、1つのアイテムを別のアイテムに置換すること。

開始点 リソースの列挙を開始するために、ロボットが訪問するサイトのリスト。

下位組織 iPlanet Directory Server Access Management Edition で、ある組織の下に生成され、企業がその部門およびリソースを、より細かく管理するために使用するオブジェクト。たとえば、Sun ONE Portal Server を設定するときに、mycompany という名前の下位組織を、最上位のオブジェクトである isp の下に生成することができる。

仮想プライベートネットワーク (VPN) 外観と機能性は通常のネットワークと変わらないが、公衆ネットワーク内の個人ネットワークと同様の役割を果たすネットワーク。低プロトコル層で暗号を使用することにより、ネットワーク接続の安全性が保証される。この場合のネットワークは、通常、インターネット。VPN は、私設回線を使用する実際のプライベートネットワークより安価だが、両側で同じ暗号システムを使用する必要がある。暗号化は、ファイアウォールソフトウェアまたはルータで行われる。

カタログ 「インデックス」を参照。

カタログ作成 「インデックス作成」を参照。

カテゴリ 検索データベース内にあるリソースの論理的な分類。カテゴリのセットをまとめて分類と呼ぶことがある。

完全指定のドメイン名 (FQDN) システムの完全ドメイン名であり、ホスト名、ネットワーク名、およびドメインが含まれる (hosta.siroe.com など)。

管理コンソール Sun™ ONE Portal Server 6.0 に対する管理者の iPlanet Directory Server Access Management Edition GUI インタフェース。

規則 条件が満たされているかどうかを判断するために適用する論理的テスト。ロボットは次の 2 か所で規則を使用する。インデックスを作成するコンテンツのタイプを判断するフィルタの一部、およびリソースに割り当てるカテゴリを判断する分類規則。

共有キー暗号化 対称キー暗号方式とも呼ばれる。プレーンテキストの暗号化や暗号文の復号化には、各当事者が同じキーを保持しなければならない暗号方式。

クローラ 「ロボット」を参照。

ゲートウェイ 別のネットワークへの接続を実現および制御するシステム。Sun ONE Portal Server 6.0 のゲートウェイは、Secure Remote Access Pack の一部。「仮想プライベートネットワーク」も参照。

検索エンジン Sun ONE Portal Server 6.0 に組み込まれている検索機能。iPlanet Portal Server 3.0 では、「iPlanet Compass Server」と呼ばれていた。検索サーバには、ロボットが収集したリソース記述をカタログ化して格納したデータベースが搭載されている。ユーザは、リソース記述を検索するか、あるいはカテゴリを閲覧して、特定のリソースを検出することができる。

検索データベース 検索可能なリソース記述のデータベースであり、通常はロボットによって生成される。「ロボット」も参照。

子 ほかのカテゴリのサブカテゴリとなるカテゴリ。

公開キー証明書 ユーザの公開キーを含むデータ構造。証明書の有効期限に関する情報も含まれる。

公開キー暗号化 非対称キー暗号化とも呼ばれる。公開キー暗号化では、すべてのユーザが2つの関連する補足キーを保持する。つまり、公開キーと非公開キー(プライベート)。各キーは、もう一方のキーが作成するコードのロックを解除する。公開キーを知っていても対応する非公開キーを推測することはできない。公開キーを発行し、通信ネットワーク上に広めることもできる。このプロトコルは、従来の暗号化に必須の安全チャンネルを使用せずに、秘密情報を保護する。

公開キーインフラストラクチャ (PKI) ユーザの ID とブラウザ、またはモバイルデバイスとのリンクを可能にする。ワイヤレス PKI は、ハンドセットの画面に表示される、証明ベースの承認。

個人デジタル証明書 (PDC) ユーザを認証するメッセージに付加される電子証明書。個人デジタル証明書を作成するには、ユーザ ID とパスワードを正しく入力するか、SSL 証明書要求を使用する。SSL 証明書要求には、ユーザ接続用サーバのセキュリティ証明書が必要。

コンテナ Sun ONE Portal Server 6.0 の場合、コンテナは主に子チャンネルのコンテンツを統合して、自らのコンテンツを生成するチャンネル。iPlanet Directory Server Access Management Edition の場合、コンテナは別の iPlanet Directory Server Access Management Edition のオブジェクトを含む、組織オブジェクトのタイプを定義する。

再スタート 状態情報を削除せずにロボットをスタートさせ、前回停止された時と同じ状態で動作を開始する。これはフレッシュスタートとは逆になる。

サイト ロボットがリソースを探しに行く、ネットワーク上の場所。サイトのアドレスおよびインデックスを作成するドキュメントの種類を、サイト定義で指定する。

サイト定義 ロボットがリソースを検出しに行く場所に対する制約。サイト定義を使用して、ロボットの訪問先を特定のサーバ、サーバのグループ、またはドメインに制限することができる。サイト定義には、ロボットがサイトからインデックスを作成するときに、対象とするドキュメントのタイプを記述したフィルタが含まれる。

サブドメイン 完全指定のドメイン名の最後から2番目の部分であり、ドメイン名 (support.siroe.com、sales.siroe.com など) を保有する企業または組織の部門または部署を識別する。

自己生成証明書 公開値のメッセージダイジェストからエンティティが命名される場合、およびそれらの名前が安全に連絡される場合に限り使用される公開キーの値。「発行証明書」を参照。

指示語 関数 (ロボットアプリケーション関数など) を呼び出してパラメータブロックの関数にパラメータを転送するために、特定の形式を使用する検索エンジンのステートメント。たとえば、次の指示語は `enumerate-urls` 関数を呼び出し、`max` および `type` にパラメータを転送する。

```
Enumerate fn=enumerate-urls max=1024 type=text/html
```

承認 ユーザに対し特定のアクセス権を許可するプロセス。承認は、認証を基にして、アクセス制御によって実施される。

証明書 人物、マシン、およびアプリケーションを識別するデータのセット。

シングルサインオン (SSO) ユーザが、1 回の認証で複数のサービスにアクセスできる機能。

スキーマ データベースのエントリとして保存する情報のタイプ (構成および構文などを含む) の定義。データベースにスキーマと一致しない情報が保存されていると、データベースにアクセスするクライアントは、適切な結果を表示することができない場合がある。

スキーマ名 SOIF のスキーマまたはタイプ。たとえば、ドキュメントの SOIF のスキーマ名は `@DOCUMENT`、RDM ヘッダーの SOIF のスキーマ名は `@RDMHeader`。

スパイダ 「ロボット」を参照。

生成 ロボットの動作のうち、列挙フェーズで検出したリソース記述を生成するフェーズ。

静的 Web コンテンツ Java Web コンテナを使用しなくても Web サーバによって提供可能な、静的 HTML ファイル、イメージ、アプレット JAR ファイル、およびそのほかのコンテンツ。Sun ONE Portal Server の場合、これは Web サーバの動的 Web アプリケーションと同じ場所にインストールされている。

セッション Sun ONE Portal Server セッションは、ユーザと 1 つまたは複数のアプリケーション間の対話シーケンスであり、ログインから始まり、ログアウトまたはタイムアウトで終了する。

セッションキー 2 人のユーザ間の 1 つ 1 つの会話を個別のキーで暗号化する一般的な暗号技術。

属性 iPlanet Directory Server Access Management Edition サービスが組織に提供するパラメータを定義。iPlanet Directory Server Access Management Edition のサービスを構成する属性は、動的、ポリシー、ユーザ、組織、またはグローバルのどれかに分類される。これらのタイプを使用して属性を個々のサービスに分類することにより、サービススキーマがより整合性のある配列となり、サービスパラメータの管理が容易になる。

組織 iPlanet Directory Server Access Management Edition で、企業がその部門およびリソースを管理するために使用する、階層構造の最上位を示すオブジェクト。インストールの際に、iPlanet Directory Server Access Management Edition は、iPlanet Directory Server Access Management Edition の企業構造を管理するために、最上位の組織である (default o=isp) を動的に生成する。インストールしたあとでも、追加する組織を生成して別の企業を管理することができる。生成された組織は、すべて最上位の組織の下位組織になる。「下位組織」も参照。

対称キー暗号化 「共有キー暗号化」を参照。

チャンネル Sun ONE Portal Server Desktop のチャンネルは、プロバイダおよび設定で構成される。チャンネルは、マークアップフラグメント、フレームセット、HTML ページなどを含むコンテンツを生成する。ほとんどの場合チャンネルのコンテンツは、別のチャンネルのコンテンツと統合されて、Portal Desktop を形成する。

抽出 ドキュメントに含まれるハイパーテキストリンクを検出するプロセス。抽出されたリンクは、後続の処理を行うため URL プールに追加される。

ディレクトリサーバ 組織内の人物およびリソースに関する情報を、論理的に中央リポジトリから配信するサーバ。「Lightweight Directory Access Protocol (LDAP)」、「Sun ONE Directory Server」、および「iPlanet Directory Server Access Management Edition」も参照。

適用範囲 インポートエージェントがインポートするリソース記述に加えられる制限。使用される構文はユーザ検索と同じ。

デスクトップ 「Sun ONE Portal Server Desktop」を参照

伝送制御プロトコル インターネットプロトコルスイートの主要伝送プロトコルであり、信頼性の高い接続指向の全二重ストリームを実現する。配信には IP を使用する。IP パケットデータのみを暗号化し、ヘッダーは暗号化しない。トランスポート層に対応しており、この層は7つの ISO 層の 4 番目に位置する。「TCP/IP」を参照。

伝送制御プロトコル/インターネットプロトコル (TCP/IP) インターネット用に開発されたプロトコルスイート。インターネット プロトコルスイートとも呼ばれる。Solaris ネットワークは、デフォルトでは TCP/IP 上で稼動する。

動的 Web アプリケーション ユーザのブラウザがアクセスする Java Web コンテナの処理が必要となる、Java サーブレット、JSP ファイル、コンテンツプロバイダなどを示す。Sun ONE Portal Server の場合、Web サーバに組み込まれている。

ドキュメント Web ページやワープロ文書などのネットワーク上のファイルが大半だが、テキストファイルおよびスプレッドシートなども含まれる。これは検索エンジンによってインデックスが作成されるリソースの一般的な名称。

特権 特定の種類の承認機能で指定されているユーザ、ユーザセット、またはリソースに認められているアクセス権の種類。

ドメイン 完全指定のドメイン名の最後の部分であり、ドメイン名を保有する企業または組織を識別する (例 siroe.com、host.siroe.com など)。

認証 ユーザの ID を確認するプロセス。

認証局 (CA) ユーザの識別情報 (ユーザ名、証明書の内容、証明書の有効期限など) を含む証明書にデジタル署名する信頼されたネットワークエンティティ。もっとも有名な CA の 1 つに VeriSign がある。

ハイパーテキストトランスポートプロトコル (HTTP) Web ブラウザと Web サーバの情報交換について定義する。「Uniform Resource Locator」も参照。

ハイパーテキストトランスポートプロトコルセキュア (HTTPS) Secure Socket Layer (SSL) 接続上の HTTP の用法について定義するものであり、通常はポート 443 にある。「Secure Socket Layer」も参照。

ハイパーテキストマークアップランゲージ (HTML) SGML に基づくファイル形式で、インターネットのハイパーテキストドキュメントに使用される。

発行証明書 認証局によって発行された証明書。「自己生成証明書」を参照。

ピア 別のサブカテゴリと同じ親カテゴリを持つサブカテゴリ。

表示プロファイル Sun ONE Portal Server で、プロバイダおよびチャンネルの定義および設定に使用する、XML ドキュメントのセット。

フィルタ 特定のリソースタイプを定義する規則のセット。サイトの定義で使用するこれらのフィルタは、ロボットが特定のタイプのリソースを受け入れるかまたは無視するかを指定する。

フィルタリング ドキュメントが、インデックスに含めるサイトの一部かどうかを判断するプロセス。

深さ 検索エンジン内のサイト開始点からたどって行くリンクの数。サイトを定義するとき、ロボットが開始点から離れてたどって行くことのできるリンク数を指定する。これにより検索の深さを制限する。

ロードバランサ 複数のゲートウェイマシンへの接続を制御することにより、各システムにほぼ同等の負荷をかけることができる。

復号化 暗号化された情報を解読するプロセス。「暗号化」を参照。

ブラウジング Sun ONE Portal Server 内で、検索データベースにあるリソースのカテゴリ分類を一覧すること。

フレッシュスタート ロボットを開始点からスタートさせる。フレッシュスタートを行うとロボットの状態情報が削除され、初期状態から次の動作を開始する。再スタートとは逆になる。

プロキシ クライアントの代わりに要求を作成したり、サービスする中継プログラム。プロキシは、サーバおよびクライアントとして交互に機能し、さまざまなネットワークサービスの内容を制御する。「リバースプロキシ」を参照。

プロトコル 交換メッセージの正式な定義、および複数のシステムが情報を交換する際に従う規約。

プロバイダ チャンネルのプログラムの部分。プロバイダに設定データを追加すると、プロバイダはチャンネルのインスタンスに分化される。プロバイダは Java のクラスであり、ファイルのコンテンツ、およびアプリケーションやサービスのアウトプットを、チャンネルに適した形式に変換する。Sun ONE Portal Server には、ブックマークプロバイダ、アプリケーションプロバイダ、およびノートプロバイダなど、多くのプロバイダが搭載されている。Desktop が表示される時、対応するチャンネルのコンテンツを各プロバイダから検出する。一部のプロバイダには、設定に応じて複数のチャンネルを生成できるものもある。

たとえば、UserInfoProvider および BookmarkProvider はコンテンツプロバイダ。

TabContainerProvider および SingleContainerProvider はコンテナプロバイダ。

JSPProvider、XMLProvider、URLScraperProvider、および SimpleWebServicesProvider はリーフプロバイダ。

分散インデックス作成 ネットワークにある別の部分のインデックスを作成するために、検索エンジンに別のロボットを割り当てるプロセス。これによって各ロボットの負荷を低減できる。検索エンジンは、個々のロボットからリソース記述をインポートすることで、すべての異なるロボットからリソース記述を収集できる。

分類規則 1つまたは複数のカテゴリに、リソースを割り当てるために使用する規則のセット。

分類法 Sun ONE Portal Server 検索エンジン内にあるリソースのカテゴリシステム。

ポート TCP/IP 接続が作成される位置 (またはソケット)。従来より Web サーバはポート 80、FTP はポート 21、telnet はポート 23 をそれぞれ使用している。Sun ONE Portal Server は (特にクライアントシステム側で) 特殊なポートを使用することにより、Sun ONE Portal Server セッションでサーバと安全に連絡する。

ポータル 企業がポータルのユーザに開放するリソースへの「出入口」またはエントリポイント。コンシューマ向けポータルの一部には、リソースのセットに World Wide Web 全体を含むものもあるが、ほとんどの企業では、ユーザとその企業の関係に特化した情報、アプリケーション、ほかのリソースが含まれる。Sun ONE Portal Server Desktop は、Sun ONE Portal Server 内にポータルを生成するためのアプリケーション。

ポータルノード Sun ONE ポータルサーバのソフトウェア、または Sun ONE Portal Server Pack のソフトウェアを実行している物理的マシン。「ホスト」とも呼ばれる。

ポリシー iPlanet Directory Server Access Management Edition で、組織の Web リソースを保護するための規則を定義する。ポリシーを割り当てることができるのは、組織およびロールだけ。

メタ情報 作成者の名前、ドキュメントのタイトル、作成日付などのリソースに関する情報。リソース記述を生成するときに、検索エンジンのロボットは、ドキュメントのコンテンツに加えてメタ情報も使用する。

リソース Uniform Resource Locator (URL) によって特定することのできる、Web ページ、ドキュメント、または FTP ディレクトリなどのネットワーク上にあるアイテム。リソースはドキュメントとも呼ばれる。

リソース記述 (RD) URL を介してリソースに対応する、属性と値をペアにしたリスト。リソース記述は、エージェントが自動的に生成するか、または手作業で書き込むことができる。リソース記述のリポジトリが完成すると、サーバはこれをリソース記述メッセージを介してエクスポートし、WWW エージェントがプログラミング手法で、リソース記述を検出し取得できるようにする。リソース記述は SOIF 形式で保存される。

リソース記述メッセージ (RDM) リソース記述と呼ばれる、ネットワークでアクセス可能なリソースに関するメタデータの、検出および取得を行うメカニズム。

リバースプロキシ クライアントとサーバ間の双方向で URL の書き換えと変換を実行するプロキシ。クライアント側に存在するプロキシと異なり、リバースプロキシはネットワークのサーバ側に存在する。Sun ONE Portal Server では、リバースプロキシは Sun ONE Portal Server Secure Remote Access Pack に存在する。

リライター リライターは、URL リファレンスを HTML、Javascript、XML、および HTTP ロケーションヘッダー (リダイレクション) などの、さまざまな Web 言語に書き換えるための Java クラスライブラリを提供する。リライターは iPlanet Directory Server Access Management Edition サービスの保存規則を定義し、書き換え方法およびデータをどのように書き換えるか指定する。リライターには、これらの規則を編集するための、管理コンソールモジュールも含まれている。

列挙 ロボットがリソースを検索するときに、ハイパーテキストリンクを抽出してたどる動作フェーズ。

ロボット ネットワークの特定部分に存在するすべてのリソースを検出するプログラム。

ロボットアプリケーション関数 (RAF) ロボットのフィルタ定義ファイルで使用可能な関数。ユーザ定義可能なロボットアプリケーション関数は、プラグイン関数とも呼ばれる。これらの関数は指示語によって呼び出される。

ロール iPlanet Directory Server Access Management Edition の場合、ロールのグループ化は特定の操作の選択を示す。ユーザまたはサービスにロールを適用すると、当事者は操作を行うことができる。たとえば、ある特権を従業員ロールまたは管理者ロールに制限してこれらのロールをユーザに適用すると、そのユーザのアクセス可能範囲は、ロールによって認可された特権に限定される。ロールはアクセス制御命令 (ACI) を使用して定義する。

ユーザ ID システムがユーザを認識するために使用する名前。

索引

I

iPlanet Directory Server Access Management Edition

- アンインストール手順 45
- インストールチェックリスト 18
- 調整 51
- バージョン 12

J

Java Development Kit

- インストールチェックリスト 13
- バージョン 12

P

- perftune 47, 49, 53
- pssetup 14, 25, 26, 27

S

Solaris

- 調整 50
- バージョン 12

Sun ONE Directory Server

- アンインストール手順 45

- インストールチェックリスト 14

調整 52

バージョン 12

必要なパッチ 14

Sun ONE Portal Server

Desktop の調整 57

Desktop へのアクセス 43

root 以外のユーザ設定 29

アンインストール手順 45

インスタンスの削除 41

インストールシナリオ 9

インストールチェックリスト 13, 20

インストール手順 23, 24, 25

オペレーティングシステム要件 12

管理コンソールへのアクセス 43

使用パターン 48

推奨ブラウザ 13

ソフトウェア要件 12

単一マシンへのインストール 10

調整手順 47

ディレクトリ配置 20

ハードウェア要件 12

複数インスタンスの作成 40

複数のマシンへのインストール 10

ユーザ nobody の設定 35

Sun ONE Web Server

インストールチェックリスト 16

調整 53

あ

- アップグレード 9
- アンインストール
 - iPlanet Directory Server Access Management Edition 45
 - Sun ONE Portal Server 45
 - 移行ツール 45

い

- 移行
 - アンインストールツール 45
 - インストールツール 27
 - ツール 9, 11
- インストール
 - Sun ONE Directory Server 26
 - Sun ONE Portal Server 23, 25
 - 移行ツール 27
 - インストール後の作業 29
 - 妥当性検査 41
 - チェックリスト 13
 - 手順 23
 - ディレクトリ配置 20

お

- オペレーティングシステム要件 12

か

- カーネルの調整 50

さ

- 最大稼動 48, 55, 57

- 最適稼動 48, 53, 57

そ

- ソフトウェア要件 12

ち

- チェックリスト
 - iPlanet Directory Server Access Management Edition 18
 - Java Development Kit 13
 - Sun ONE Directory Server 14
 - Sun ONE Portal Server 20
 - Sun ONE Web Server 16
- 調整
 - iPlanet Directory Server Access Management Edition 51
 - Solaris 49
 - Sun ONE Directory Server 52
 - Sun ONE Portal Server 47, 57
 - Sun ONE Web Server 53
 - TCP パラメータ 50
 - カーネル 50
 - 最大稼動 48, 55, 57
 - 最適稼動 48, 53, 57

は

- ハードウェア要件 12

ふ

- ブラウザ 13

よ

要件

オペレーティングシステム 12

ソフトウェア 12

ハードウェア 12

